

園基 幼稚の心後志備全

795.
1472i
W



井上保申編輯

園基

幼稚の心養ふ備



全

緒言

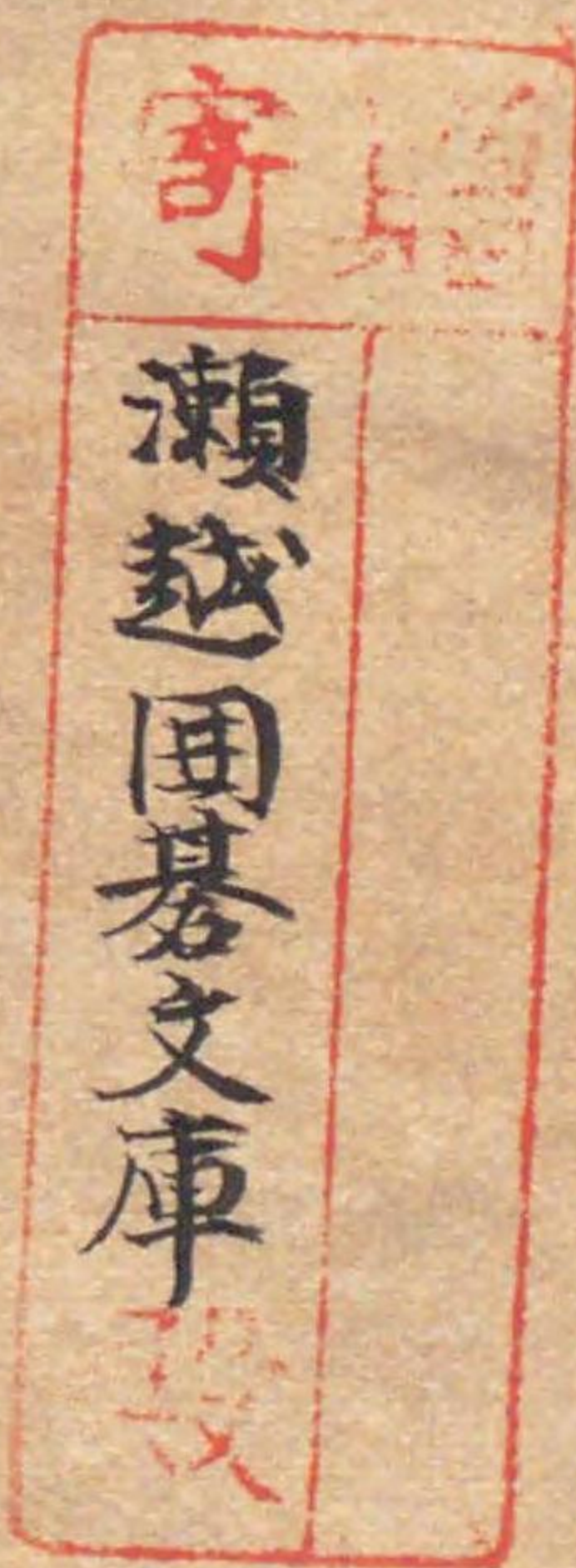
予よ普あまねく棋道きだうの隆盛りうせいを慮おもり初學しよがく者しやけう教示じよ書しよとして圍碁ゐごの道みちあるべ及び圍碁ゐご獨習どくしゆ定石ぢやうせき解かい其他そなた
各かく種しゆを編へん輯しゆし大おほに棋界きかいの賛成さんせいを得え斯道しだうの發達はつたつを促うながし來きたしと雖いへども猶なほ一層いっそう最初心さいしん者しやの學まなび
易やすからん事を思し意いし永年えいねん實地じつちに涉わたり研究けんきうの曉あかつき問道もんだうより本道ほんだうに導みちびく手段しゆだんを採とり以もつて爰こゝ
に圍碁ゐご幼稚えうちの登茂ともし志備しびなる一いっ篇ぺんを編へん輯しゆする處ところなり希こゝろは世よに棋道きだうを學まなび得えたしと思立おもひた
ば此この一いっ小冊せうさつを手にし石いしを取とり盤面はんめんに手てを下くだし研究けんきう有あらん事を希望きやうぼうして不や止ど處ところなり畢おはん

八十翁

大正二年一月

編輯者 井上保 申述

緒言



617212

棋道

幼きころより論じ下
くものたあまふ
多岐にわたる
保申

圍碁幼稚のやも志む

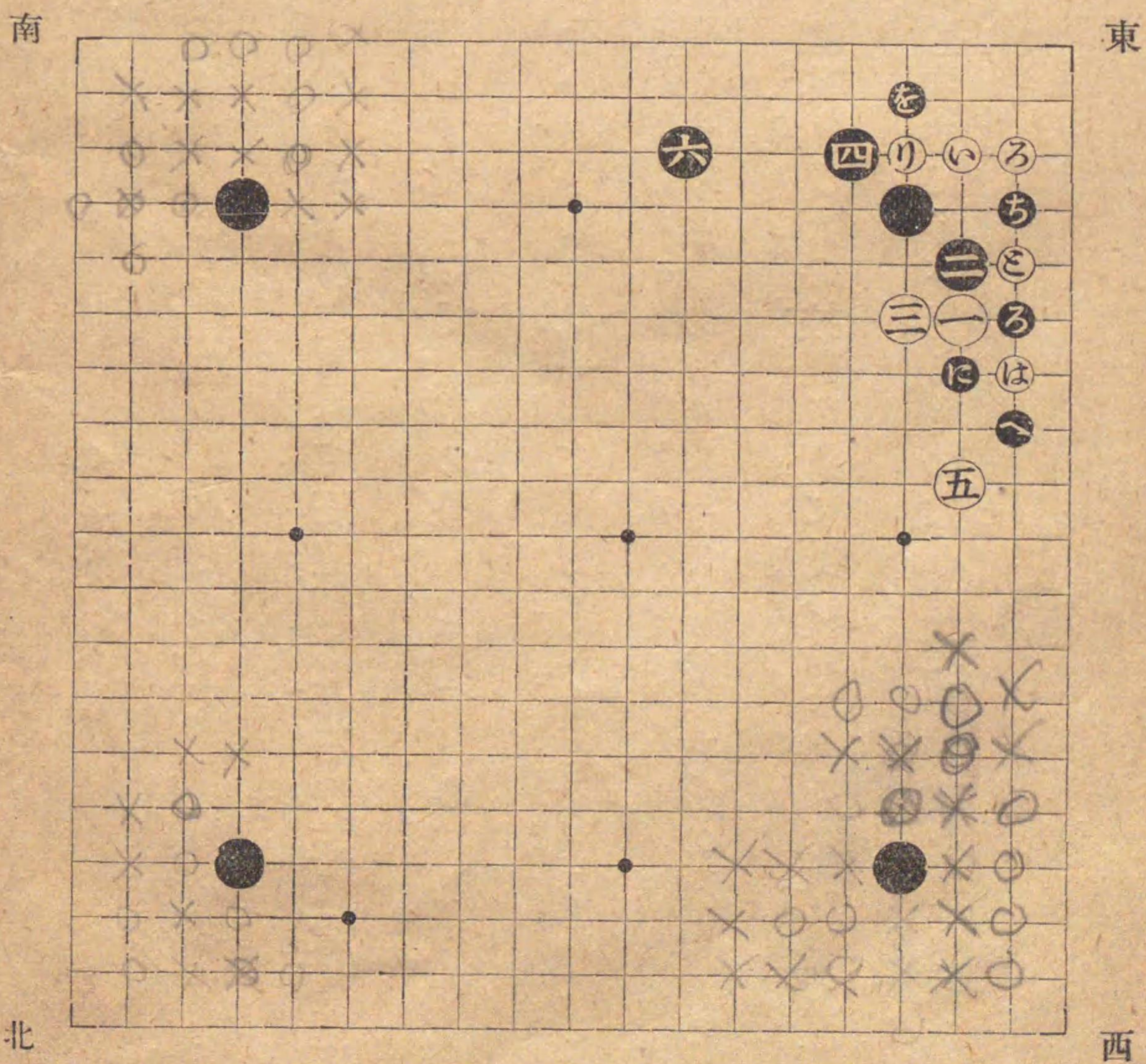
第一圍碁の心得

○抑も圍碁を學ばんと欲せば先づ圍碁は如何なる理由を基本とし成立しものなるやを
知り得て而して其打方及び定石なるものを學び尙進みて石立即ち布石法並に大打堅
小打堅の手順を研究自得するを順序とす爰を以て圍碁の原理を示す左の如し

○圍碁は字の如く相互に地目を圍ひ合ひ對手よりは一目にても多く地目を圍ひ得たる
方かたの勝からとなるなり故に互に手段を巡し十中四分の利を對手に與へ我六分の利を得る
を目的とし相互に挑争ふものなれば其圍ひ方の技術熟達に隨ひ奇々妙々の手段を發
明し自然に定石及び石立なるものも胸中に浮び出るものなれば之を機械とし對局す
べきなり

置碁打方の心得

○東西南北四角の黒星は四目の置石とす此
 一角の置石一目に對し黒の地目凡十目の財
 産を存するものとす之に對する白は無財産
 にて①と打しを小斜走掛と云ふ之は黒の財
 産中②へ打込黒の財産を消白に財産を得を
 含たり黒之に對し定石外に道理を以て應ず
 る時は③と打を尖附と云ふ之は白の④へ打
 込を防尙⑤に綽を含たれば白⑥と打しを立
 と云ふ又白手抜の時は黒⑦に打を綽と云ふ
 此時白⑧へ不立して⑨へ打を押ると云ふ之
 は無手なり何となれば其時は黒⑩に打を切
 と云ふ之は白⑪の石に追手の掛りし故に白
 は⑫へ立の外なし此時黒⑬に押一子を抱取
 手あり故に白は⑭へ押る手なく⑮へ立しな
 り此時は又白より⑯へ打込を生じたり如何

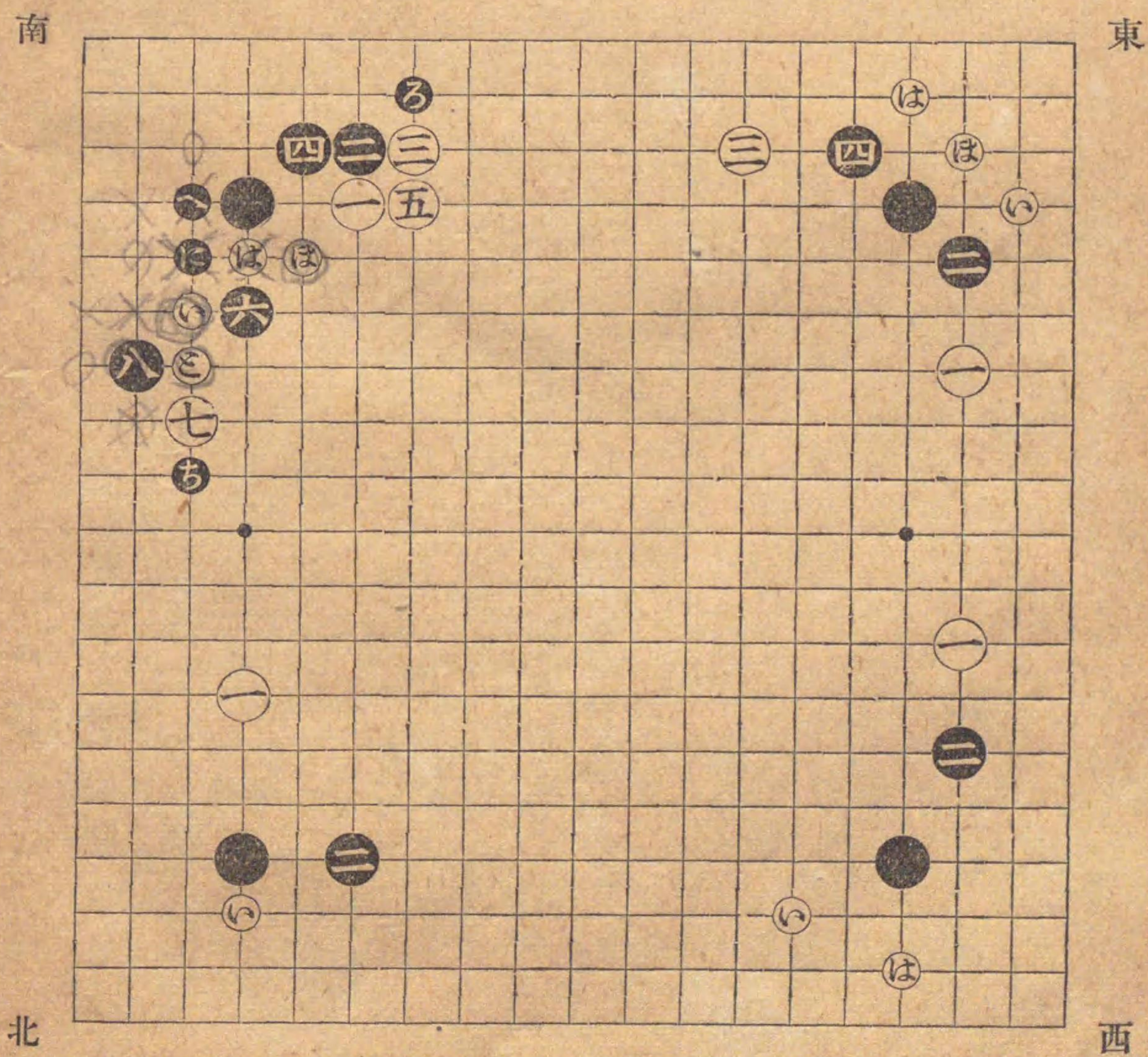


となれば此時白⑮へ打込は⑯へ綽盤を含たれば黒⑰に尖其盤を防ば白⑱へ並出黒の地目皆無となるなり故に黒
 之を防⑲と尖たり此時白⑳へ打込も黒㉑の處へ尖込白㉒へ押れば黒㉓の處綽白㉔の處へ押し時黒㉕に尖込時は白
 に活る道なし爰に至り黒東角へ十目以上の地目を備たれば白も㉖と打之を二間啓と云ふ即ち白も幾分の地目を占
 領せしなり黒も又同く㉗と二間啓に打財産を増加したり爰に白黒地目對照し差引黒方十目以上の地位を占領せし
 は道理を以て置石の財産を保護し得たる手順を示す處なり猶定石と雖も此道理に成立しものにして悉く手割即ち
 割合を基本とし相互に利得有處を研究手段を巡らし變化の有限りを考慮し盡し他に打方なき處を確定せしものを
 以て定石となしたるものなれば棋道に入らんと欲せば先づ定石を學び而して其定石の理由を詳細に自得する時は
 對局心の儘自由自在に活動せらるゝものとす爰を以て後編は定石に照し手毎に理由の有處を示し初學者に尤も
 解し易からん事を慮り編輯する處なり將又棋道盤面に向ては精神正直を要し邪心を發する事なく第一取氣第二
 妬嫉心第三一目惜此三事は敗局の基因なれば尤も禁すべきなり但し圍碁は聖人堯舜の作製なればなり

同く心得

○東角へ白①と打しを大斜走掛と云ふ此意味は黒の財産中②へ走込を含たれば黒③に尖之を防たり白又④と大斜走掛に打しは同く⑤へ走込を含たれば黒も同く⑥に尖此走込を防たり已に黒は東角へ完全たる地位を得たり此時白⑦へ打込し時は黒⑧の處又は⑨の處へ尖時は白に活る手段なしとす爰に至り道理上自然に大斜走掛の定石は成立しなり此定石に四種の打方有之は予の編輯圍碁の道たるべ稽古本置碁大斜走掛の部に明記す猶其定石の意味を知らんと欲せば同く圍碁獨習定石解置碁大斜走掛の部に詳細明了に説明し有を看べし

○白西角へ①と打しを大々斜走掛と云ふ此意味は白②と左右より黒に迫り黒に地目を



を得させざるの手段なり故に黒①と打其手段を防しなり此時白②の處へ掛しは③へ斜走に走込を含たれば黒同く

④の處へ打之を防黒地を圍ひしなり是又道理上定石とはなりしなり

○南角へ白①と打しを一問高掛と云ふ之は右の方に地勢を張猶②へ打左右より黒地へ迫らんとす故に黒③に打之

を頂ると云ふ之は白の地勢中へ進行を含たれば白④へ押黒⑤と打しを引と云ふ之は⑥に縛を含たれば白⑦へ打

しを粘と云ふ此粘にて⑧に縛を防たり此時黒⑨と打しを一問啓と云ふ之は白⑩へ頂黒⑪に縛れば白⑫の處へ押黒

⑬の處を切ば白⑭へ引黒⑮に粘ば白⑯へ並手有を以て黒⑰に啓防たり之は黒⑱に啓黒地の廣張を含たれば白⑲に

打たり此手は尙⑲の處へ打込を含たれば黒⑳に打之を防たり是又道理上一問高掛の定石とはなりたり

○北角へ白①と打しを二問高掛と云ふ此手は②へ頂黒地の蹂躪を含たれば黒③と打しを一問啓と云ふ之は即ち④

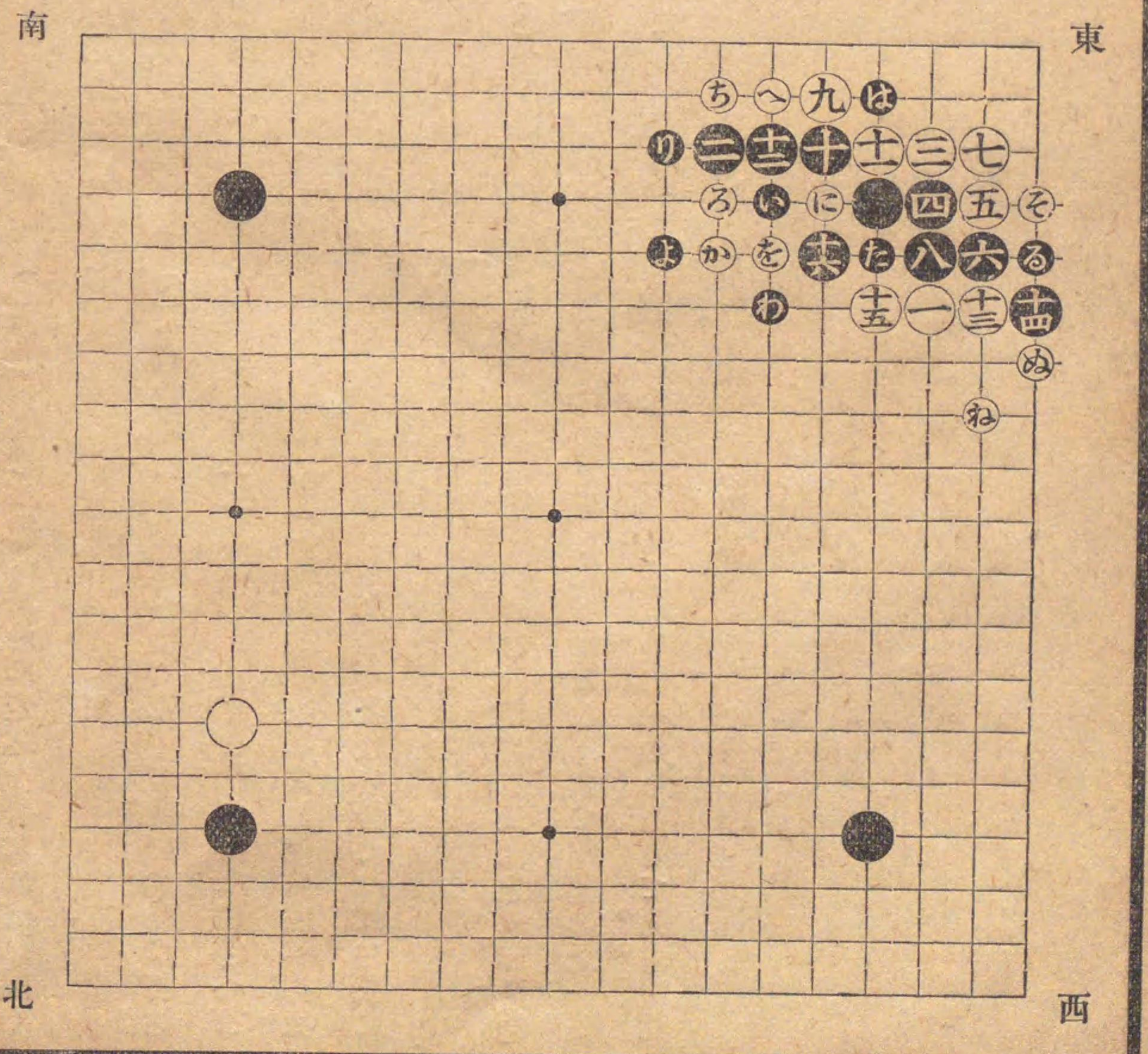
の頂を防き而して黒の地位を堅固に備へたる好着手なり是又道理上自然に定石となりたるなり就ては黒の此一問

啓の功力を知らんと欲せば前説の如く圍碁道たるべ稽古本二問高掛の部に就て四種の變化を知り而して圍碁獨習

定石解の同部に照し其理由詳細説明する處を研究自得あらん事を希望する處なり

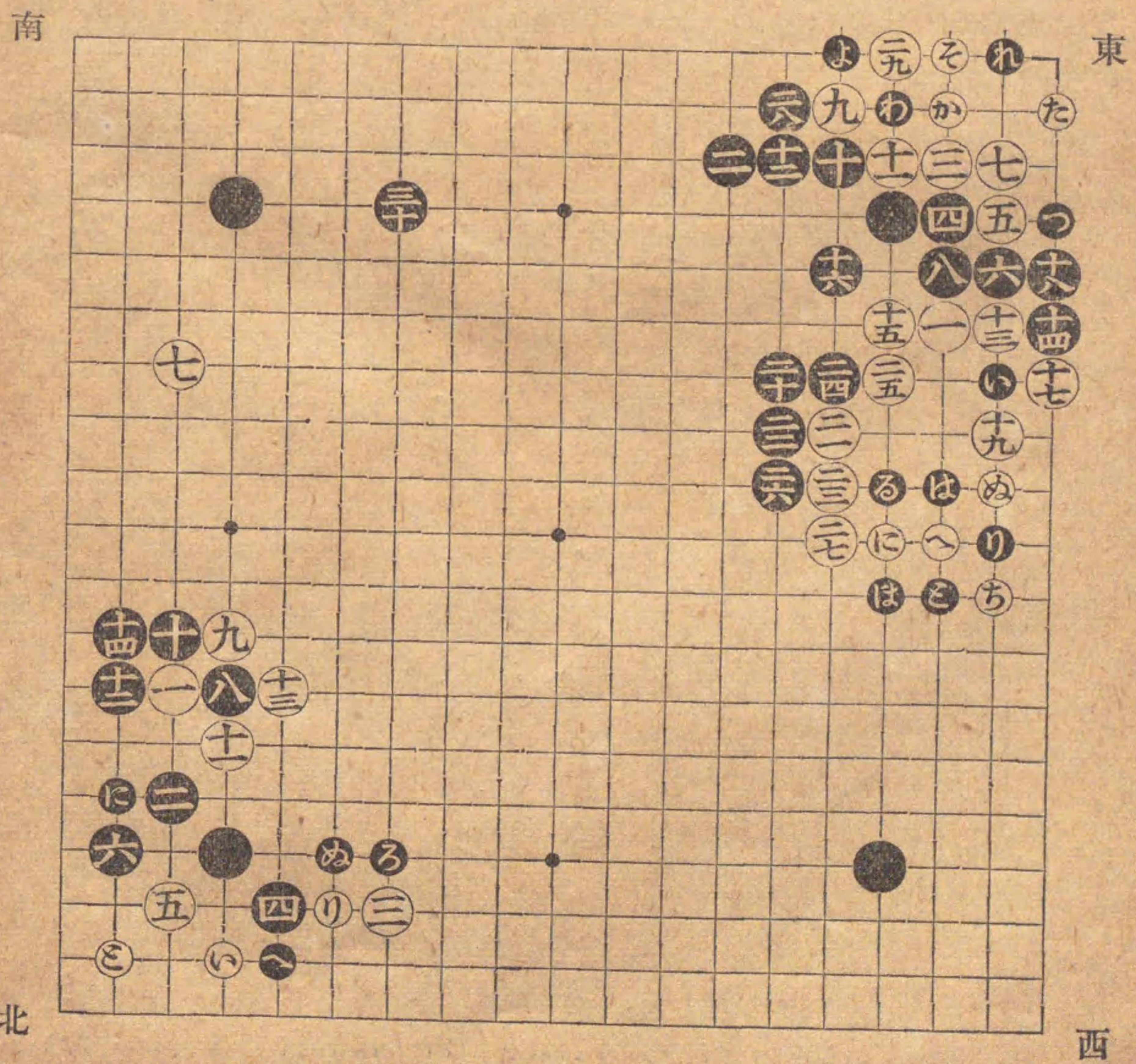
○前局に於て白の小斜走掛、大斜走掛、大々斜走掛、一間高掛、二間高掛、の五種の掛方及び黒の之に應答の道理を示たり此五種の掛は白自然の定石にして黒の置石へ對し打掛るは此五種の外なし故に黒も此五種の受手を置碁定石とす爰を以て其定石の初歩より手毎に其名稱及び理由を説明し定石の成立及び定石の功力を示べし

○第一白東角へ①と小斜走に掛し時黒②と大斜走に啓しは古來の定石とす此意味は白③と打込し時は黒④と押白の①②の聯絡を斷白の③の石を内にて活し外面の白に迫るを目的とするの意を含たり此時白⑤へ打しを綽と云ふ之は①の白へ盤を含たれば黒⑥に打を押ると云ふ之は⑤を切⑤の一子を切取を含たれば白⑦へ粘しは⑧の處を同く



切取を含たれば黒⑧を粘し時白⑨と打しを斜走と云ふ此意味は⑤の處へ尖附黒⑥に押し時白⑦へ切を含たれば黒⑩と打しを尖附と云ふ之は黒⑥に駈込を含たれば白⑧へ打之を突當と云ふ此意味は⑥の切及び⑤の處へ駈込を含たれば黒⑥に打之を並ぶと云ふ又白⑤へ不突當して⑥へ行し時は黒⑤の處へ押白尙⑦へ行出せし時は黒も⑦に行るを可とす白に於て猶這出時は黒は之を不押何所までも行るを大利益とす白も斯なりては黒に瑕なく外面を掩はれ白①の石生活に苦しむを以て白は⑤へ突當黒に⑥へ並ばせ而して⑥へ押しは角の白完全の活なれば外面①の白の活を計しなり此時黒⑤と盤を防打しを綽と云ふ此時白⑥へ打しを立と云ふ之を黒手抜の時は白⑦へ押黒⑧に粘し時白⑨の處を切黒⑩の處へ綽白⑪の處へ行黒⑫の處へ追手と打を征に掛しと云ふ此征なるは北方①の邊に征の當なき時は脱出事不可なり何となれば此時白⑬へ出ば黒⑭に追手と打白⑮へ出ば黒⑯に追手と打何所までも追手々々と打なればなり故に白⑬へ不出⑭を切黒の六子追手となれば黒⑮の處へ二子を取り時白⑰の處へ追手と打込黒⑱の處へ之を取白追手と⑲へ押黒⑲の處へ粘し時白⑲に打を掛粘と云ふ斯なりては黒愚形となり最も不可なれば黒⑲に掛粘しなり又此⑲の掛粘好手にして外面の白に對し大に響たり其理由は次局に説明すべし

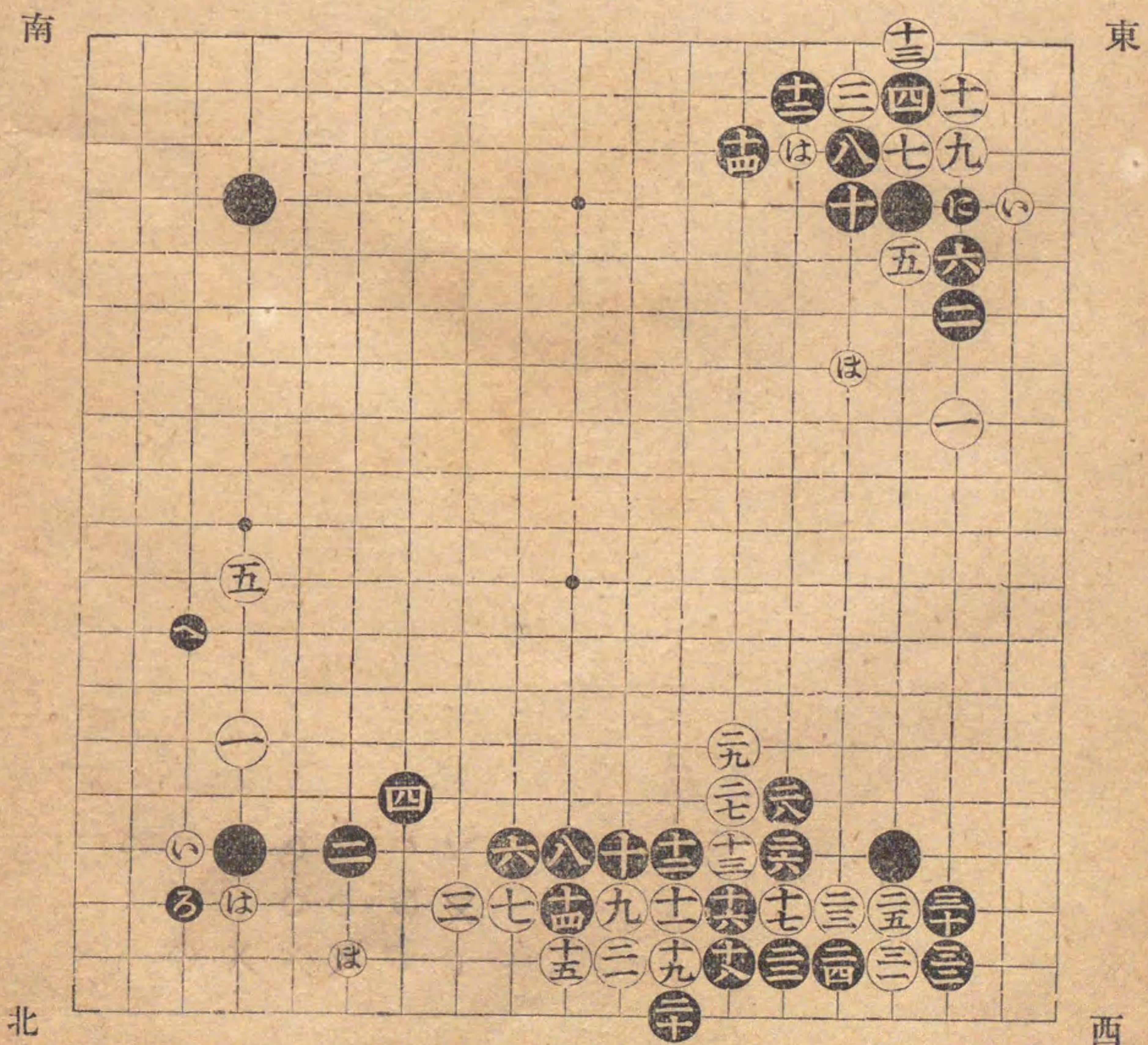
前局説明の續き黒●と粘し上は白も外面に地位を得ざる不能白●へ追手と押黒●に粘ては●に切を生じたれば白●へ打しを掛粘と云ふ此時黒●に斜走に打しは尙●に打を舍たれば白●へ打之を防たり此時黒●に押へ白地へ進入を計たれば白●へ行黒尙●に打しを曲込と云ふ白●へ押し時黒●に押へしは●の處へ押白●へ綽れば黒●に二段に押白●へ行れば黒尙●に押へ白●へ綽れば黒●を切手有之は白●へ押へれば黒●を切ば白二目二目の爾追手となるを以て白●へ行し時黒●に押しは白手拔なれば黒直●を切白●へ押黒●に一子を取白●へ打眼を持たんとすれば黒●に手中に打白●へ打盤を防し時黒●に出眼を欠時は白一眼にして即ち死石となれば白は手を不拔して●へ



掛粘活を打し時黒南角より二間啓に●と打時は黒の地位廣大となるなり之即ち白小斜走掛三々の打込の結果にして外面の地勢此如くなりては白を角に活も置石二目にして十目の財産を保護して饒り有とす猶此三々の打込定石には五種の變化打方ありソハ前説の如く道玄るへ稽古本に就て研究し尙進んで其理由詳細に知らんと欲せば同く定石解を研究有たし

○第二大斜走掛の定石に照し手毎に説明すべし白北角へ○の着手を大斜走掛と云ふ之は●の處へ走込を含まれば黒●に尖之を防たり白又●と大斜走に打しも同く●へ走込を含まれば黒●に打之を防しなり之は白の○●の石へ●の處及●に頂る手有ば白●と打之を防しなり又此手は黒手拔なれば白●の處へ尖黒●に押白尙●の處へ尖黒●に押し時白●へ活を打手を含まれば黒●に尖之を防たり爰に至り黒より●に附る手なしとす何となれば黒●に頂れば白●へ突當黒●に押れば白●の處へ綽盤る手有ばなり故に白手抜にて南角へ●と啓し時黒●の尖有を以て●に頂白●へ綽れば黒●を切白●の一子を不捨して●へ綽れば黒●●に綽白●へ一子を取ば黒●●に粘時は黒方大に優勢なり尙此大斜走掛に四種の變化打方有ソハ前説の如く道玄るへ及び定石解に照し研究ありたし

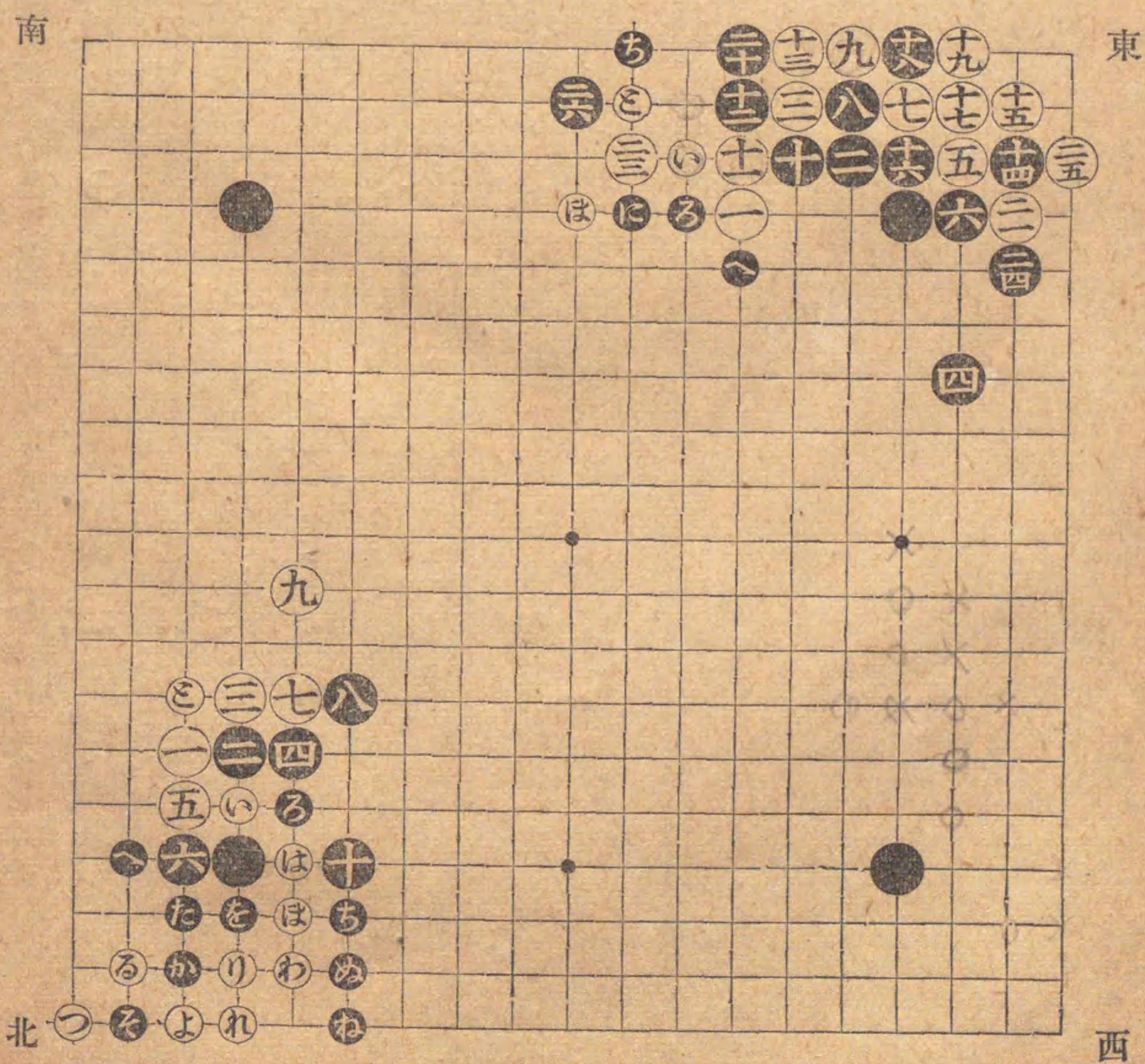
○第三大々斜走掛の定石に準ひ手毎に説明すべし白東角へ①と打を大々斜走掛と云ふ之は②へ走込及び③へ兩掛を合たれば黒④に打の走込を防たり此時白⑤と打しは⑥の處へ打込を合たれば黒④に打之を防し時白⑤と打しは⑥の處へ進入を合たれば黒⑥と押へし時白⑦と打しを駈込と云ふ此時舊式にては黒⑧の處へ押白⑧の處へ粘黒⑨の處へ粘白⑩の處へ押黒⑪に粘白⑫へ兩斜走に掩ふ定石なれども此如く白に外面を掩はれては黒死石とならざるまでにして大に不利益なれば之を改めて今は新式として⑬を切白⑭へ行ては⑮の處兩切となれば黒⑯と粘ては黒⑰の處へ押白⑱の二子を取手有ば白⑳へ押黒㉑へ追手と押白㉒へ一子を取し時黒㉓に掛粘時は舊式と反對に黒外面を掩ひ



黒の形勢大によし猶此大々斜走掛の定石に四種の打方有是又前説の如く道しるべに就て見るべし

○第四一間高掛の定石に準ひ手毎に説明すべし白北角へ①と打しを一間高掛と云ふ之は白②へ頂黒③に押れば白④の切を合たれば黒⑤に啓之を防而して⑥の處へ啓黒地を廣張せんとす故に白⑦と打之を防而して⑧へ走込を合たるに不拘黒⑨の尖尤もよし此手は⑩に打を合尙⑪に掛を合左右へ響たる妙手なり故白⑫の打を防⑬へ二間啓しなり但し此⑭へ打の結果は道しるべ稽古本の一問高掛の部に明記し有を見るべし此時黒⑮に掛白⑯へ押黒⑰に行白⑱へ一間に啓黒⑲に押へ白⑳へ行黒㉑に押し時白㉒へ綽は無理筋なり此時は黒㉓に出白㉔へ押黒㉕を切白㉖へ綽黒㉗に下り白㉘へ押黒㉙に追手と綽け白㉚へ粘黒㉛に並出白㉜へ行黒尙㉝に並出白㉞へ行し時黒若し㉟の處へ連て並出時は白㊱の處へ行出時は黒死石となるなり故黒㊲の處へ不並出して㊳を切白㊴へ立し時黒㊵の押し此時白は㊶へ立の外なし此時黒㊷に押白㊸へ曲し時黒㊹に押るを以て白大失敗となるなり爰を以て白㊺の綽は無理筋なり故に白㊻の綽を不打㊼の處へ行し時は黒㊽の處へ押飽まで外面を押附る時は黒外面の形勢廣大となり大利益とす總じて棋道は瑕なく外面を掩ふを希望すべきなり

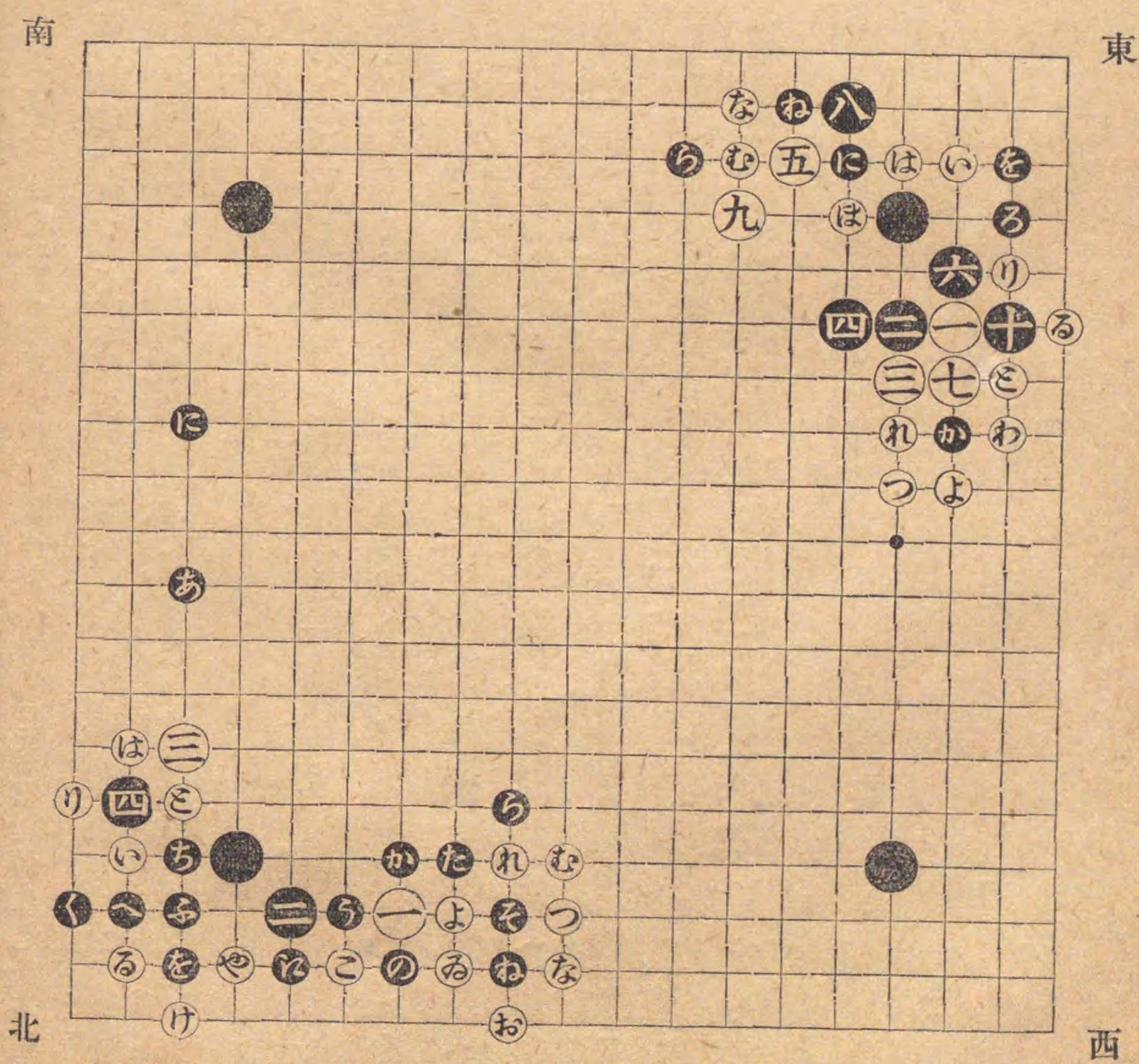
○第五二間高掛の定石に準ひ手毎に理由を説明すべし東角へ白①と打を二間高掛と云ふ之は白②の處へ附黒⑤の處へ押れば白③の處を切て黒の地位の蹂躪を含まれば黒④に尖之を防しは猶⑥の處へ頂白⑦へ押し時黒⑧を切白⑨の處へ縛れば黒⑩の處に粘白⑪の處へ行黒⑫に押白⑬へ縛れば黒⑭に一子を抱る手有を以て白⑮と打之を防し手なれば角の黒地に響うすければ⑯の處へ押るの必用なき故黒⑰と大斜走に啓を定石とす此時白⑱へ打込は無理筋なり此時は黒⑲に押るを可とす白⑳へ尖盤し時黒㉑に突出白㉒へ押黒㉓に曲出白㉔へ押黒㉕を切白㉖へ粘し時黒㉗の縛よし白㉘へ押黒㉙に追手と當白㉚へ粘し時黒㉛の打込之を打交と云ふ此手必要なり之は白の手数を減する手



段として打處なり白①へ取し時黒追手と②に押る之を追落と云ふ此時白③の處へ粘手なく④を切の外なし此時黒⑤の處へ三子を打貫白止なく⑥へ啓し時黒⑦に押白⑧へ一子を取り時黒⑨と大斜走に飛出時は白に於て之を斷切手段なし何なれば白⑩へ押れば黒⑪に盤手有ばなり斯なりては白地勢なく黒大に優勢なり之は白⑫の打込無理筋の結果とする處なり

○第六附手の定石に照し手毎に説明すべし白北角へ①と掛し時黒②と打しを頂手と云ふ此時白③と打しを駈上ると云ふ之は④へ追手と駈込を含まれば黒⑤に行之を防し時白⑥へ行出しは尙⑦の處へ進入を含まれば黒⑧に押白⑨へ押⑩の處へ出切を含まれば黒⑪に縛し時白若し⑫の處へ突出ば黒⑬に押白⑭を切ば黒⑮の處へ縛白⑯へ下し時黒⑰の下り必要白⑱へ切を粘し時黒⑲に押白⑳へ尖黒㉑の下りよし白㉒へ一間に啓黒㉓に當白㉔へ粘黒㉕に駈込白㉖へ押黒㉗に粘白㉘も㉙へ粘し時黒㉚の打交は即ち白手を一子減する手段なり白之を㉛へ取り時黒㉜に下る時は黒一手の勝となるなり之は白の㉝へ出切の無理手段の結果と知べきなり爰を以て白は㉞へ啓地勢を得黒も㉟に啓上下の切を防しは普通の定石にして黒の地位優等なり猶此附手打方各種有故に前説の如く道しるべ及び定石解に就て研究有たし

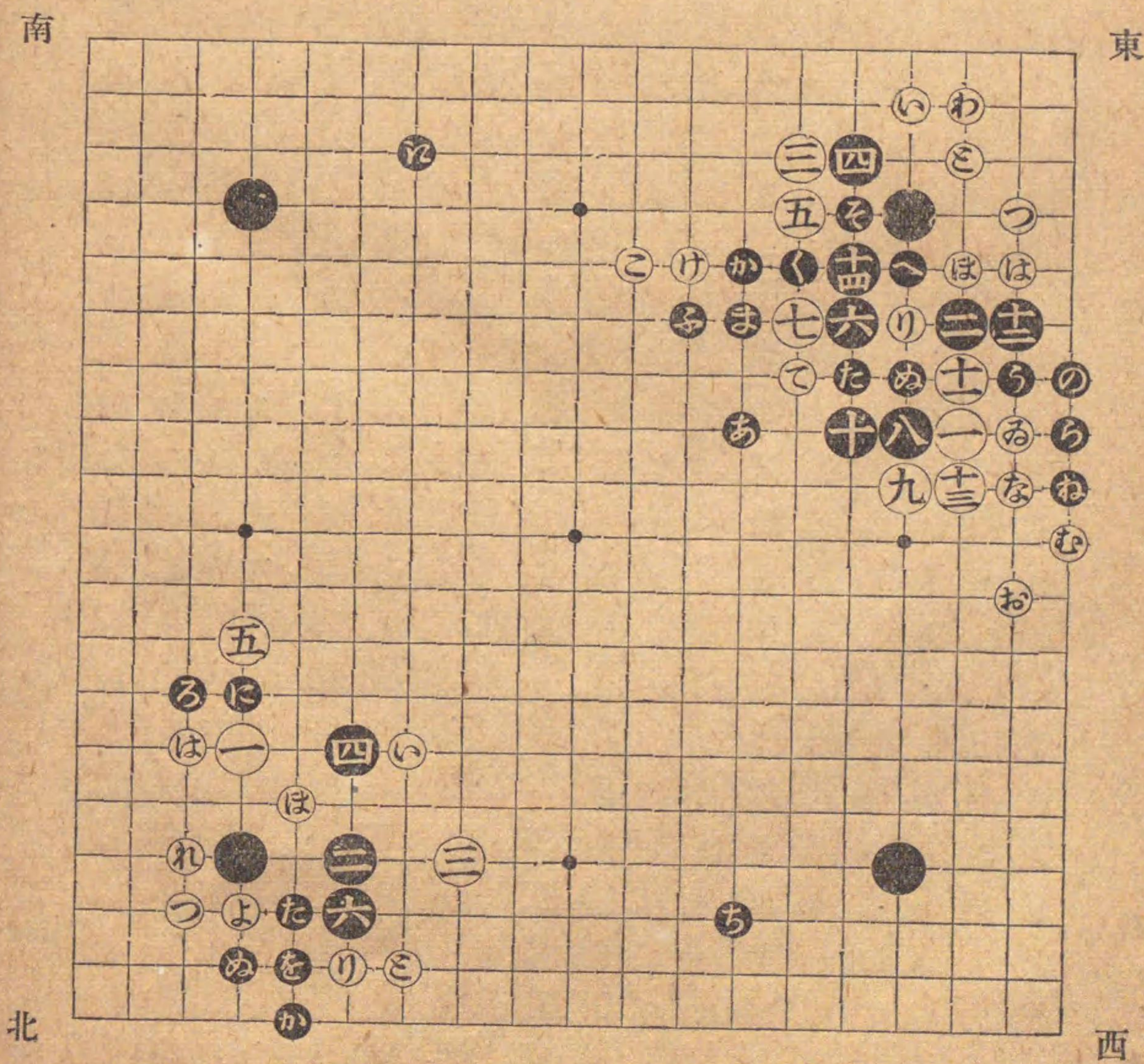
○第七頂手兩掛の定石に照し手毎に理由を説明すべし白東角へ①と掛り黒②に頂手に打白③へ綽黒④に行し時白⑤と打しを兩掛と云ふ之は⑥へ打込黒地を皆無にするを含まれば黒⑥に押しは⑦の處の切を含まれば白⑦へ粘ては尙⑧へ打を生じたれば黒⑧に打之を防し時白⑨へ尖しは又⑩へ打を含まり何なれば此時黒手抜なれば白直に⑪へ打黒⑫に打盤を防げば白⑬へ突出黒⑭に押し時白⑮を切ば黒手たらずとなるなり故に黒手を不拔して⑯に綽之を防し手順よし何となれば此時白⑰へ押るも黒手抜にて他の要所へ打を可とす此時白⑱に打なば黒⑲の處へ押白⑲を切ば黒⑲の處へ押白⑲へ取し時黒⑳に並手有ばなり故に白㉑へ押る暇なく手抜の時黒㉒の處へ行出白㉓へ押れば



かを切手有ば白㉔へ啓くべし其時黒㉕の處へ駈込白㉖へ押黒㉗の處へ粘白㉘を粘し時黒㉙に並出白㉚へ押し時黒㉛に視白㉜へ粘し石形悪きは黒㉝に視し捨石の手段とす爰に至り黒手抜を可とす

○第八大斜走掛の定石に照し手毎に説明すべし白北角へ①と大斜走掛に打黒例の如く②に尖し理由は前説に同じ此時白③と小斜走兩掛は前局に異なる處にして之は④へ走込を含まれば黒④に打之を防しは小數と見て左にあらす意味を合て大によし此時白⑤へ押し時は黒手抜にて南角より大々斜走に⑥へ啓を可とす此時白⑦の處へ④の石を挾打し時は黒一子を捨て⑧に附白⑨へ押黒⑩に追手と當白⑪へ一子を取し時黒は⑫の附を防⑬に掛粘は普通の形なれども此所は⑭の響を以て⑮に頂白⑯へ引黒尙⑰に押白⑱へ綽し時黒⑲を切白㉑へ綽黒⑳に下り白㉒へ押し時黒㉓に綽白㉔へ粘黒㉕に押白㉖へ取を掛し時黒㉗に追手と當白㉘へ二子を打貫せし手順は黒二子を捨白の地を打堅附しは手段にして猶②に當を以て③の附を防しなり如何となれば此時白④に附れば黒⑤に下り白⑥へ啓し時黒⑦の處へ割込白⑧へ押黒⑨に粘白⑩へ盤を打も⑪の手存在を以て黒⑫に追手と突出有ばなり故に此所黒手抜にて㉓と二間に詰る時は㉔の二手を打越黒の利益莫大なり即ち此定石に含處の理由なりとす

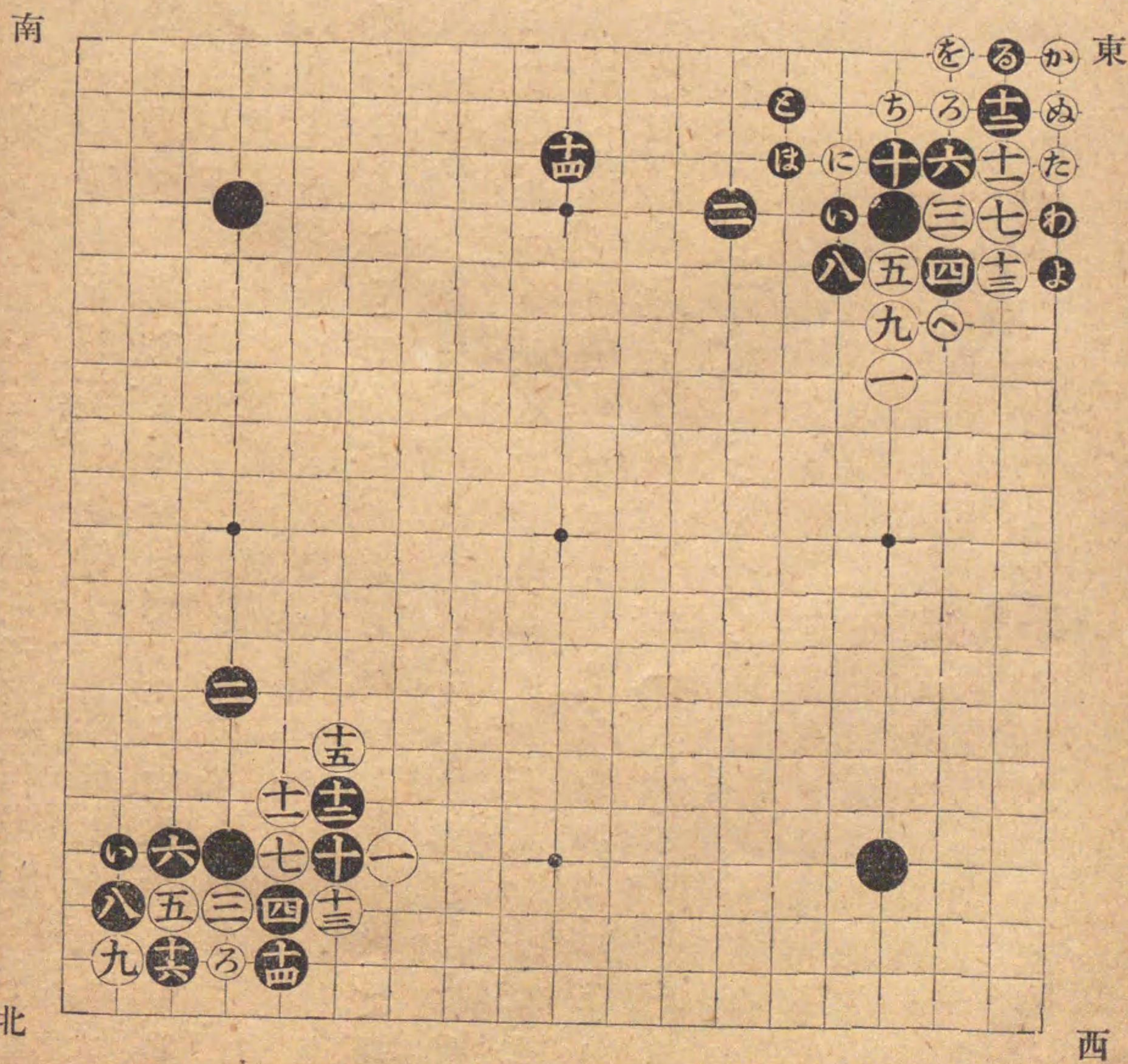
○第九大々斜走掛の定石に照し手毎に理由を説明すべし白東角へ①と大々斜走に打黒②と之を受し時白③と兩掛に打しは④へ走込を含たれば黒⑤に尖附之を防白⑥へ立しは⑦へ打を含たり何となれば此時黒⑧に飛立ざれば白直に⑨へ打込黒⑩の處へ押れば白⑪へ突出黒⑫に押白盤を含⑬へ啓黒⑭の處へ尖盤を防し時白⑮を切黒⑯に縛白⑰の處へ行黒⑱の處へ粘し時白⑲へ押る時は黒の四子死石となるなり故に黒⑳に立㉑の切を防しなり又此㉒の手は㉓に斜走掛を含たれば白㉔へ頂之を防黒㉕に頂白㉖へ縛黒㉗に立白㉘へ突當し時黒㉙の處へ棒粘は形なれども夫にては白手抜にて他へ着手すべし故に黒㉚に下るを可とす之は㉛の處の切を含たれば白㉜へ粘之は又白㉝の處へ出



黒㉚に押白㉛の處へ突出黒㉜の處へ行白猶㉝の處へ突當黒㉞に粘し時白㉟へ打黒の二子を取手有を以て黒㉞に並之を防たり爰に至り完全たる定石とはなりしなり但し此定石は後に黒先手に利益多々有其手順は黒㉞に打之を大猿と云ふ白之を押止るには㉟へ打黒㊱に引白㊲へ押黒㊳に打白㊴へ當黒㊵に粘白㊶へ掛粘に至り黒先手に凡八目の利益とす次に黒㊷に突出白㊸の處に押黒㊹を切白㊺へ行黒㊻に押白㊼へ行し時黒此所手抜にて㊽に打を可とす何となれば此時白㊾へ行出ば黒㊿に打之を三門と云ふて白脱る路なしとす此如く先手の利益有とす

○第十一間高掛の定石に準ひ手毎に理由説明すべし白北角へ①と一間高掛に打黒②と啓し時白③と打しは④へ打外面を掩ふの含なれば黒⑤に飛之を防しは又⑥に打を含たり之は白⑦へ押れば黒⑧の處へ押れば黒⑨の處へ引手有ば白⑩へ啓之を防たり此時は又白より⑪へ尖込兩切を含たれば黒⑫に下り之を防しなり此時白⑬へ打ば黒は手抜にて西角へ⑭と打を可とす此時白⑮へ並出なば黒⑯に放打を可とす然るを黒⑰に押るは不可なり如何となれば此時白⑱の處へ附黒㉑に下れば白⑳へ突當黒㉒に粘し時白㉓へ縛る手有又黒㉔に不下して㉕の處へ粘し時は白㉖へ尖黒㉗の處へ押れば白㉘の處へ盤る手有て黒の不可となると知べし

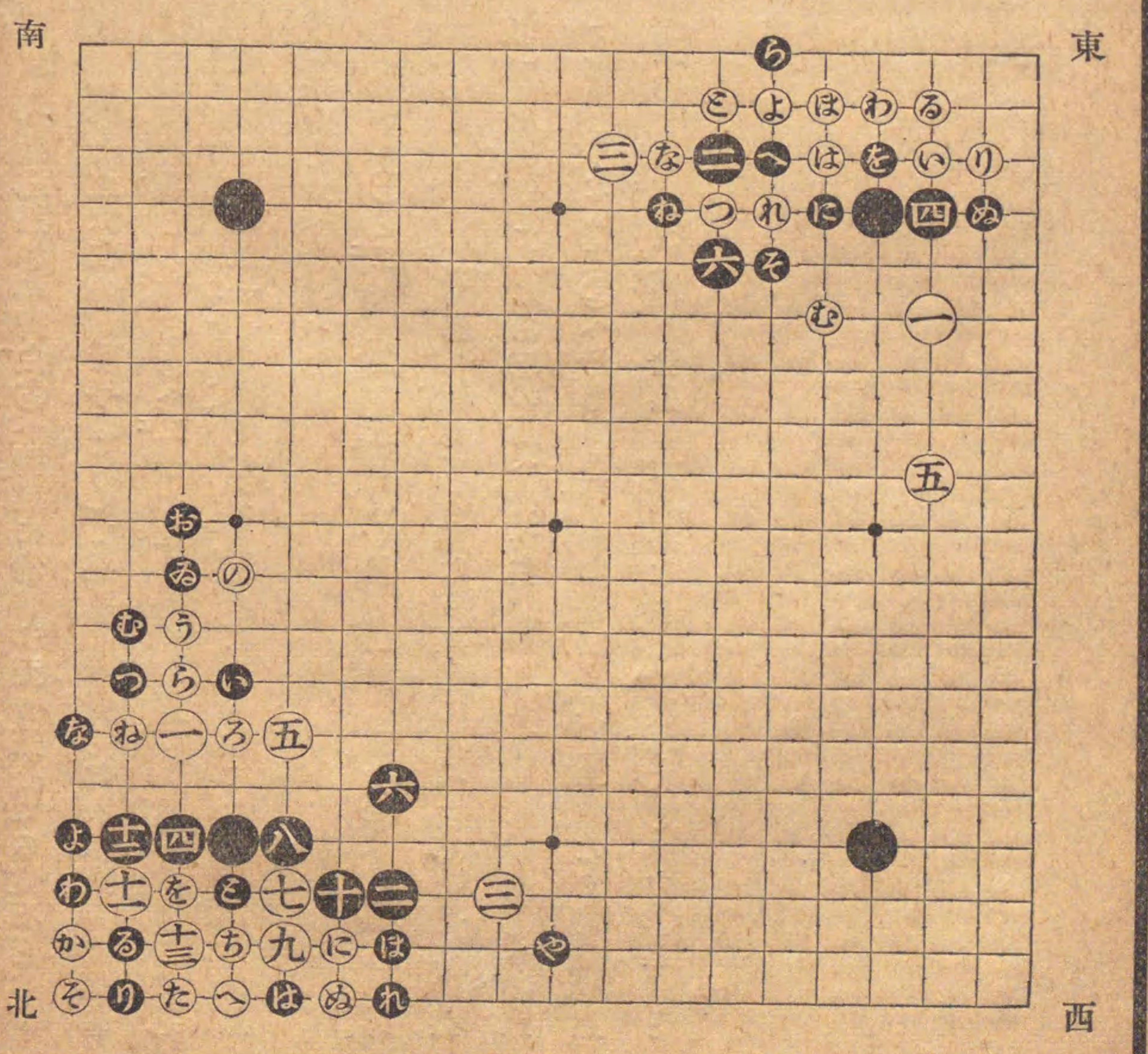
○第十一白二間高掛の定石に準ひ例の如く手毎に説明すべし白東角へ○と二間高掛に打黒●と同く二間に啓し時白◎へ附し時は黒④と外より抱るを定例とす然るを内より⑥の處へ押るは俗手にして悪し如何となれば其時白⑩の處を切黒⑤に並白⑧へ綽黒⑩の處へ行白⑨へ並黒⑥に押白⑦の處へ押黒⑦の處に曲り白④の處へ行黒③の處へ並出白②へ引黒①に下り白①へ粘時は白五手黒四手にして黒死石となればなり故に黒は外より④に押るを必要とす此時白⑤を切黒⑥に綽白⑦へ行黒⑧に追手と綽け白⑨へ粘し時黒⑩の粘肝要なり之を⑩の處へ押るは俗手にして悪し何となれば此時白⑩の處へ曲る時は黒⑩の處を不粘得ざるなり之即ち一手の損なり此布石中後手の損は其數



算なし尤も勝敗に關するものとす故に黒⑩に粘白⑩へ曲込黒⑩に押白⑩へ押黒に⑩啓に至り完全たる定石となり手割上黒尤も優等とす但し白⑩の手にて⑩へ綽る事有之は白の瞞着手段にして悪手なり何となれば此時は黒⑩の處へ押白⑩の處を切黒⑩に下り白⑩へ押し時黒⑩に追手と綽白⑩へ二子を取り時黒取跡⑩の處へ追手と打込白⑩の處へ之を取り時黒⑩に粘白⑩へ粘ば黒⑩の處押る時は黒一手の勝となる手有ればなり故に白⑩の綽は黒⑩の處へ下らせ而して⑩へ打の刷毛叙での瞞着手段と知べきなり

○第十二前十一の二間高掛の異變化裏手を示す白北角へ○と二間高掛に打黒同く●と二間に啓白◎へ附黒④と外より押しまでは前局に同じ此時白⑤へ行しは前局と異なる處にして即ち變化する處なり黒⑥に押へ白⑦を切し時黒⑧に綽白⑨へ押し時黒⑩に粘は普通の形なれども此場合にては白⑩の處へ押へ白⑩の處へ下りし時白⑩へ押黒手不足となるなり故に黒⑩に不粘して⑩と駈込しは妙手なり白⑩へ行し時黒尙⑩に押白⑩は外に手段なく⑩を切黒⑩に下り白は止なく⑩へ綽二子を征に掛し時黒⑩を切内外振替りは黒の大利益なり之は裏手にして白⑩黒⑩と追回し取を以て之を車手と號しなり

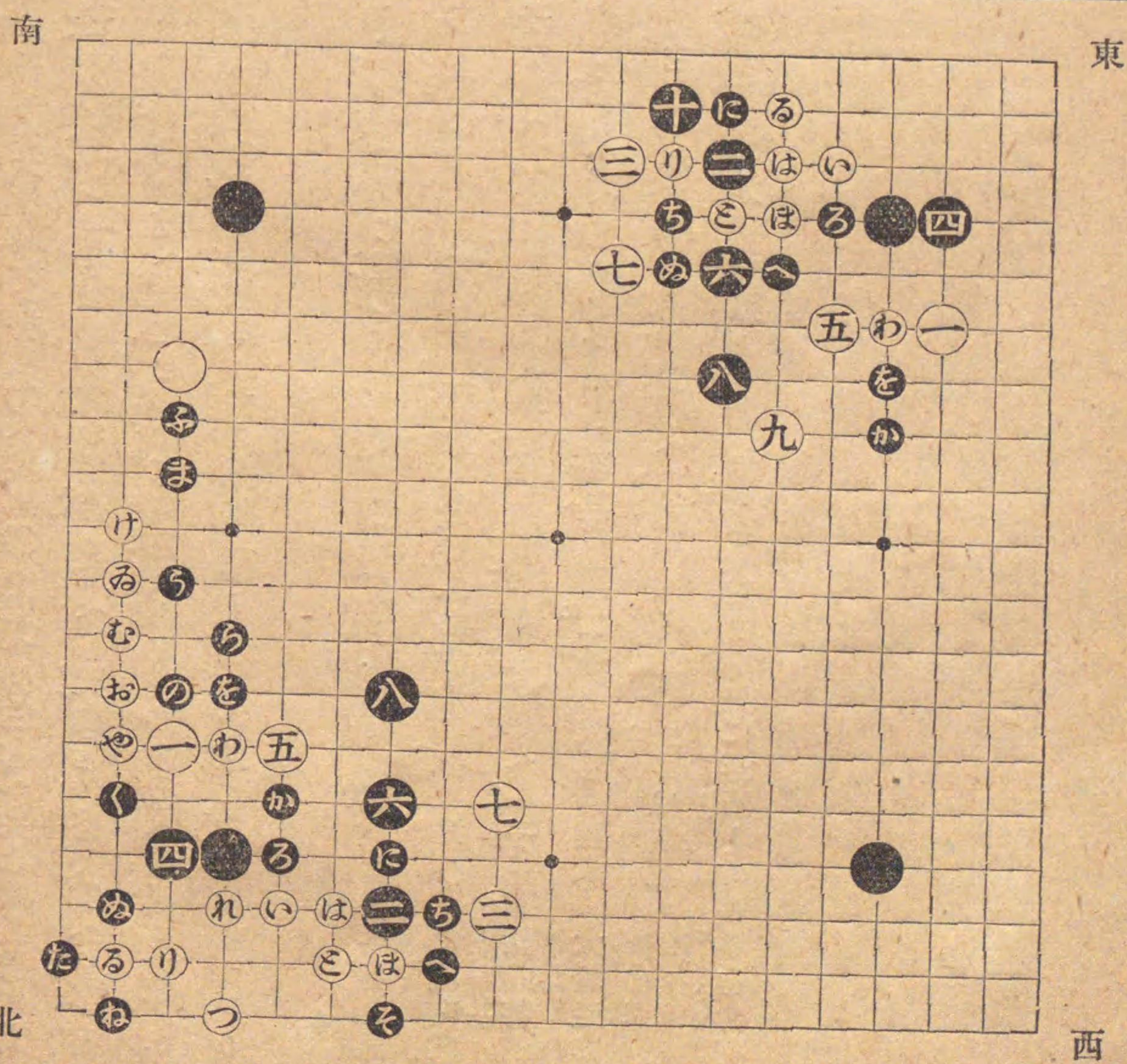
○第十三白小斜走掛黒大斜走啓の定石に準
 ひ其原理を手に説明べし白①と東角へ小
 斜走に掛黒②と大斜走に啓しは古來の定式
 なり此時白③へ打込を三々の打込と云ふ之
 は初に理由を説明する處なれば之を除く此
 時白④と外より詰しは而して⑤へ打込黒を
 無財産とするを含まれば黒④と打之を締と
 云ふ此締は⑥の打込を防猶外面⑤の處へ
 夾打を含まれば白⑤へ啓たり又此⑤の啓は
 ④へ打込を含まり何となれば此時黒④に押
 れば白③へ下りしは③へ頂盤を含まれば黒
 ④に押白盤を含まり④へ打黒④に之を押白④へ
 尖活を打し時は黒普通は⑤の處へ詰定石な
 れども已に白⑤へ啓在れば黒目なしとなり
 困難に陥るなり故に白⑤の啓は④へ打込を
 含まれば黒之を知り④に立を定例とす又此



時白④の處へ打込し時は黒④に押白④へ
 綽し時は黒④の處へ押白④へ尖黒④の處へ押白④へ尖し時黒④の處
 へ當白④の處へ粘黒④に押白④へ突出黒④に押白④を切し時黒④に綽る手有と知べし又白⑤の啓をむへ立事有
 之も意味は同く④の處へ打込を含しなり故に黒は同く④の處へ立之を防は即ち定石とす此時白④へ打込し時之に
 對する手順は古の口傳なり尤も予の編輯定石解兩立の部に詳細講義する處なれども乙圖を以て次に示すを見る
 べきなり

○第十四乙圖白北角①へと掛しより黒の②までは前局に同じ但し此の③立は④の打込を防しに不拘白⑤へ打込黒
 ④に押し時白④へ下ては黒④に押白④黒④白④の尖にて活となるは定石なり此時黒は古の口傳に準ひ④に視白④
 へ粘し時黒④に頂白④へ並黒④に押白④へ一子を抱へ黒④に視白④へ押黒④に中手を置白④へ一子を取活を打し
 時黒④に突當白④へ粘黒④に盤白④へ打交黒④に粘白④へ追手を掛黒④に押白④へ二子を取し時黒④に大斜走に
 飛出白④へ突出黒④に盤白④へ突出黒④に行出白④へ押黒④に綽白④へ押黒④に行るに至ては白黒の地中活し
 までにして外面の白地位を失ひ黒の優勢なる言を俟ざるべし猶黒より④に飛出し白を中央に浮石とする手を含有
 とす

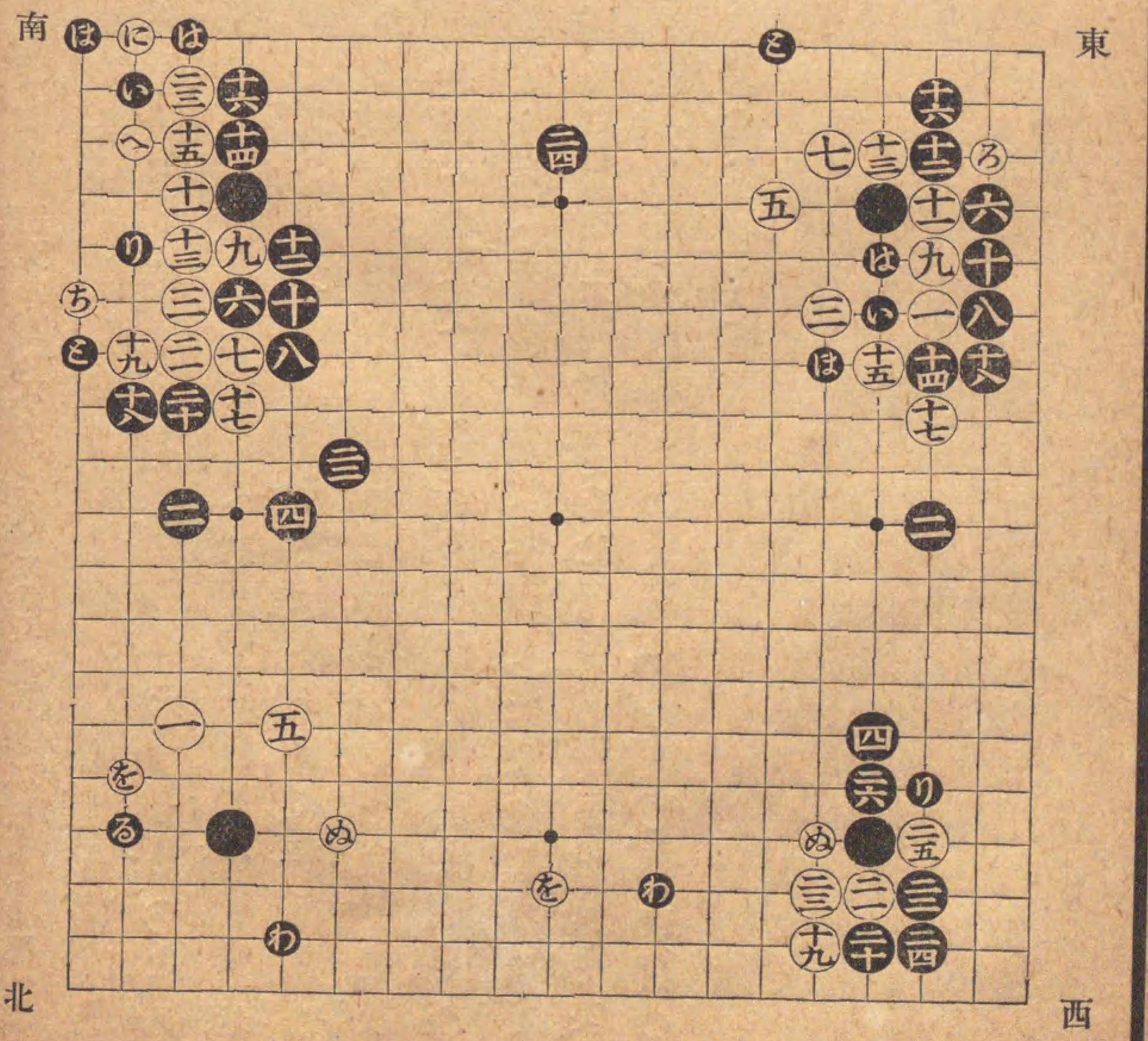
○第十五黒大斜走締兩立の定石に準ひ手毎に理由を説明すべし白東角へ○と打黒●に啓白○へ詰黒●に締白○へ立しは○へ打込○へ打込し時は次の乙圖の變化に依て知べし此時白○へ不打着○へ立しは尙○へ打込を含たり何となれば黒手拔なれば白直に○へ打込黒●に押白○へ突當黒●に下り白○へ曲出黒●に押白○へ突當黒●に押白○を切し時は白に○の手在を以て黒は●に不粘を得ざるなり其時白○へ押る手有ばなり黒も之を知り●に立しは外面●に覗白○へ粘し時黒●に並手を含たれば白○へ打之を防たれば黒も●に打○の打込を防たり爰に至り白○と小斜走に掛黒●と大斜走に啓し古來の定石の結果にして白黒相互に道理を



盡し應答する時は此如き結果となるの外なしと知べきなり將又白○へ不打着直に○へ打込し不可なる結果の手順は次に乙圖を以て示すべし

○第十六乙圖白北角へ○と掛黒●に啓しより●に立しまでは本局に同じ此時白外面の覗を不防して直に○へ打込し時は黒●に押白○へ突當し時は黒下る手なく●に棒粘の外なし此時白○へ綽黒●に押白○へ粘黒●も●に粘白○へ斜走し黒●に尖白○へ押し時は黒に出切を生じたれば先づ●に覗きを肝要の手順とす白○へ粘し時黒●に切を防ては黒より●に綽る時は白死石となるなり如何となれば此時白○へ押れば黒●に綽白○へ目形を打ば黒●に綽るを以て即ち白死石となれば白は手を拔事不能●の處へ行切活を打ざるを得なり此時黒●に並白○へ斜走し黒●に尖白○へ行出し時黒●に突出肝要なり白○へ押黒●に覗白○へ粘し時黒●に啓白○へ行出せし時黒●に並時は白活る路なしとす之即ち黒●と打し時白○の覗を不防して直に○へ打込し白の悪手段の結果と知べきなり然れども若し南角に白の布石○或は●の處に在時は此手順成り立ざれば黒●の立の時注意し若し南角に○或は●の處に白の布石在時は●に不立して黒は●の處へ尖を可とす

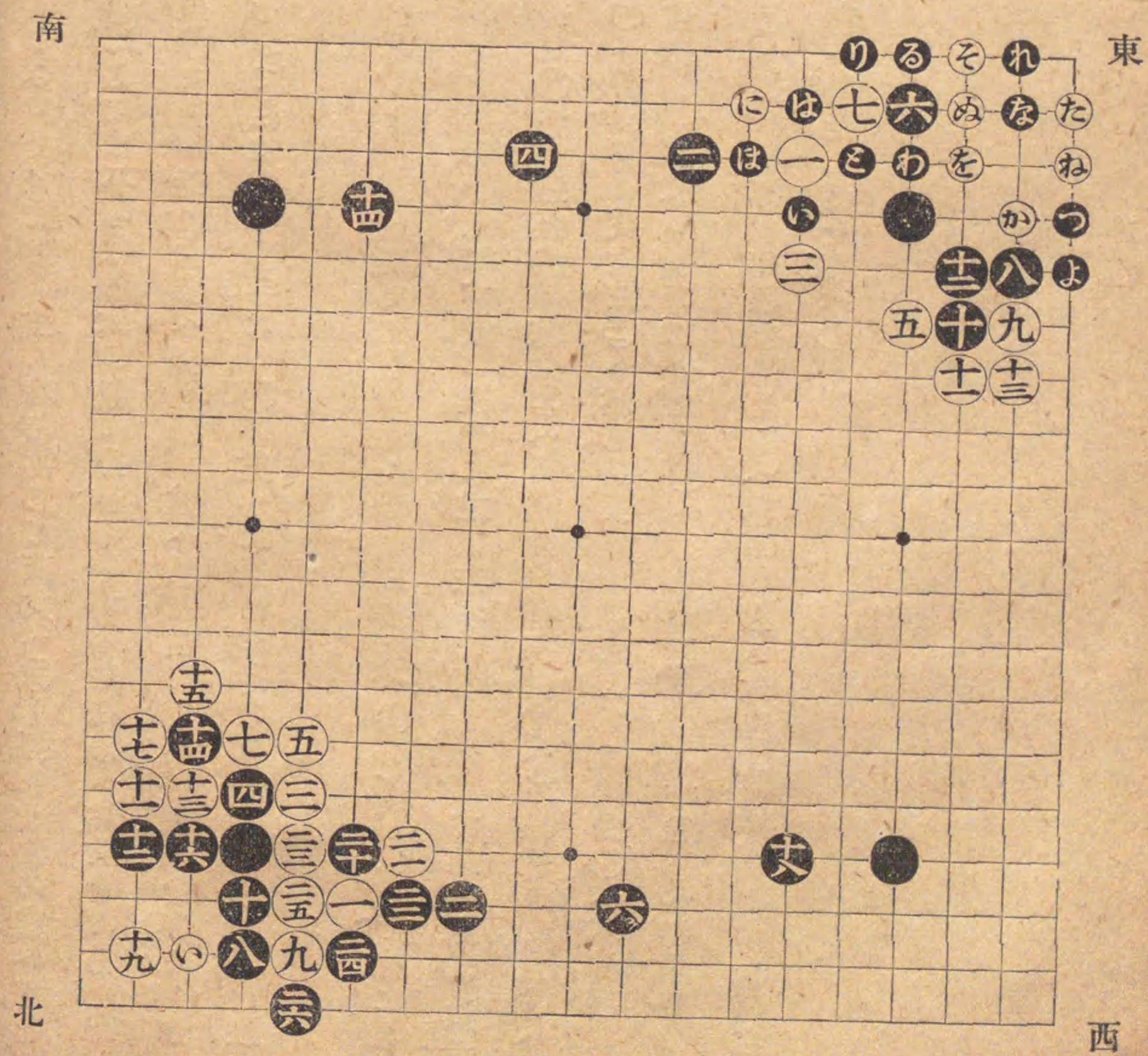
○第十七明治新式目下詰定石に準ひ手毎に理由を説明べし白東角へ①と小斜走に掛し時黒之に應せずして②に打を目下詰と云ふ之は故秀甫本因坊の新案古碁に會て不見所にして即ち置碁進歩の緒なり其理由に於ては此②の手は東西兩角に響白東角を③へ立し時は黒東角を拋棄し西角に④と地位を占領せしは手割即ち割合なり此時白⑤と外面を掩し時黒⑥に飛下りし手よし此時白⑦へ尖込黒之を不押⑧の頂よし此時白⑨の處へ押れば黒⑩の處へ孕白⑪の處へ掛粘ば黒⑫の處へ押直に活となれば白⑬へ並黒⑭に粘白⑮へ突出黒⑯に押白⑰を切り時黒⑱の綽よし何となれば此時白⑲の處へ綽れば黒は一子を捨て⑳に馭込白㉑へ取黒㉒に押白㉓の處へ粘し時黒㉔に綽黒地優勢なり



れば白①へ押黒②の下は③に大猿を合たり此時白④へ綽黒⑤に粘し時白轉じて西角へ⑥と打しは⑦の處へ打を合たれば黒⑧に押白⑨へ馭込し時黒外より⑩の處を切は不可なり故に⑪に押を可とす此時白⑫へ粘黒⑬に粘し時白⑭の切は手段なり此時黒⑮の棒粘よし之を黒⑯に押る時は白⑰へ押黒⑱の處へ粘ば白⑲へ啓便理を與るなり然るを黒㉑と打し時白㉒へ啓時は黒㉓に打込を以て白は㉔へ啓手なく㉕の處へ二間に啓外なし故に白①の切は黒の應手を試みし手段と知べし

○第十八同く目下詰異變化を示す白北角へ①と掛黒②と目下詰は前局に同じ此時白南角へ③と打しは異變化にして前局に異なる處なり之は④の目下詰南北兩角の響を斷しを意味す故に黒⑤に立猶左右の響を繼續す此時白⑥へ立黒⑦に頂白⑧へ綽黒⑨に立の響を以て⑩に押白⑪へ馭込黒⑫に粘白⑬へ綽黒⑭に押白⑮へ粘黒⑯に行白⑰へ押黒⑱に尙行し時白⑲へ並黒㉑に斜走よし白⑳へ押黒㉒に突當白㉓へ粘し時黒㉔の尖形よし此時白㉕へ不押手拔の時は黒直に㉖に飛込白㉗の處へ突出黒㉘に盤白㉙へ打交黒㉚に之を取白㉛へ押し時黒㉜に綽白㉝へ押黒㉞に置時は白五目中手にして死石となるを以て白㉟へ押活を打し時黒㊱と目下へ啓時は黒の地勢尤も優等とす此時白北角へ㊲と掩し時黒㊳に飛下り白㊴へ尖附黒㊵へ斜走し活を打べし

○第十九詰返三手拔の定石に準ひ手毎に理由を示すべし白東角へ①と掛し時黒外面より②と打し詰返と云ふ之は黒③に頂を含たれば白④へ立し時黒東角を抛棄し④に啓しは割合なり此時白⑤へ掩ひ黒⑥に飛下りしは⑦に頂白⑧へ押れば黒⑨を切白⑩の處へ馱込ば黒⑪を切白⑫の處へ粘ば黒⑬に取盤手有ば白⑭へ盤を防し時黒⑮に打しは⑯の處へ飛出を含たれば白⑰へ押し時黒⑱の馱込よし此時白⑲へ押すして⑳の處を切は無理筋なり其結果は道志るべ置碁詰返三手抜の部に明記す故に白㉑へ押黒㉒に粘白㉓を粘し時は黒の東角活有を以て黒此處手抜にて南角を⑳と締時は㉔⑵の正三手抜にして黒の利益莫大なり此時白㉖へ附し時は黒㉗に下り白㉘へ視黒㉙に粘白㉚へ尖附黒

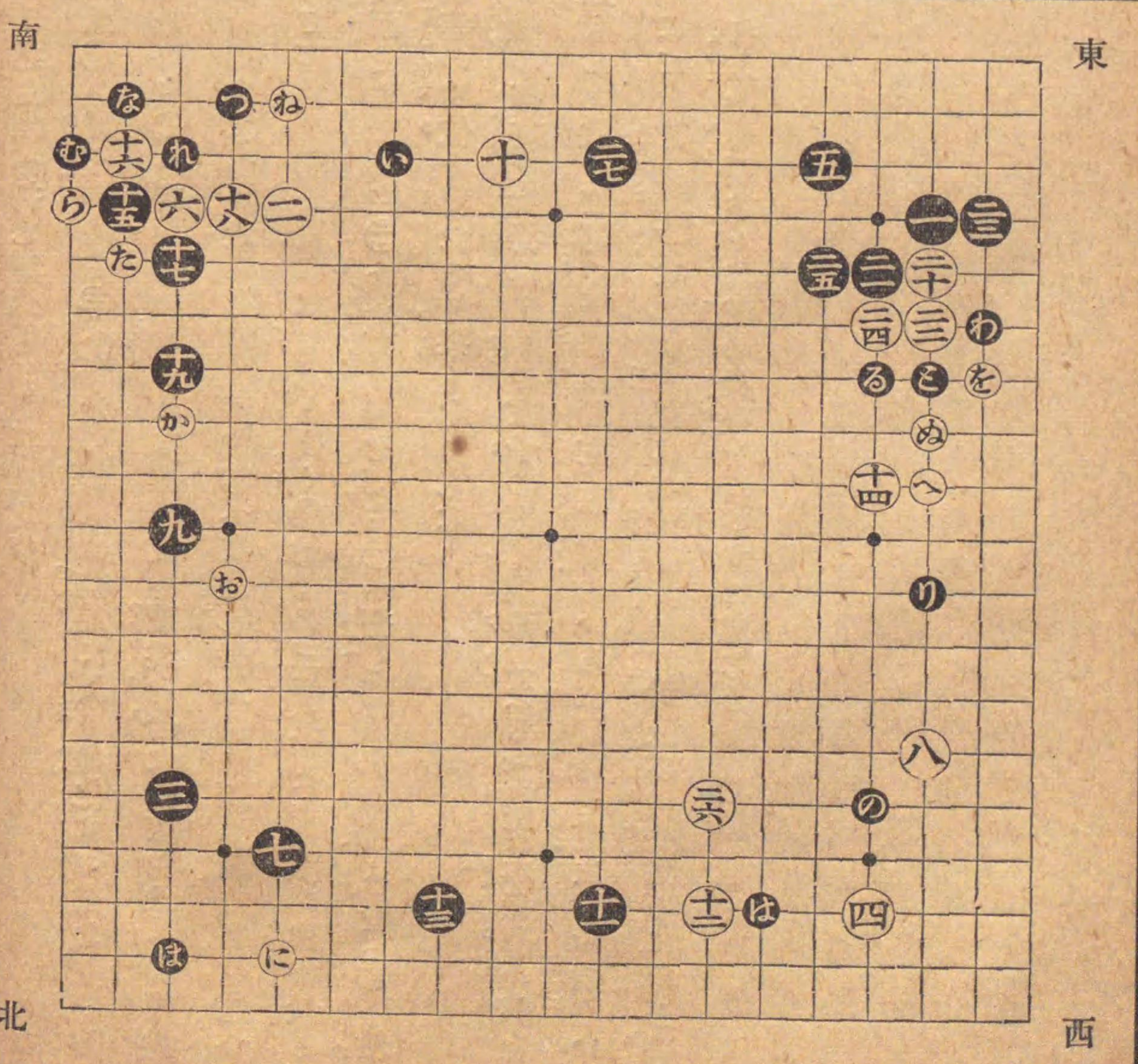


㉑に下り白㉒へ打ば黒㉓に置白㉔へ押黒㉕に行込白㉖へ押し時黒㉗に並手有とす

○第二十同詰返の變化を示す白北角①と掛黒②と詰返の時白③へ斜走に掛しは前局に異り變化する處なり此時黒④に押白⑤へ行黒此所手抜にて⑥の啓よし此時白⑦へ押黒⑧の飛下りは⑨の處へ頂盤を含たれば白⑩へ尖附盤を防りして⑪へ附を含たれば黒⑫の棒粘よし此時白⑬へ斜走し黒⑭に附白⑮へ突當し時黒⑯の切手順なり白⑰へ押黒⑱に押白⑲へ一子を取し時黒此所手抜にて西角を⑳と締ては前局と同く㉑㉒の三手抜となり黒の棋勢最も優勢なり此時白㉓へ打込し時黒㉔の頂越手段面白し此時白㉕へ綽黒㉖を切白㉗へ押し時黒㉘の當よし白㉙へ粘し時黒㉚に盤し手順妙味あり爰に至り前局同等の地位を得たる結果となりしなり

○爰に置碁の打方大略を示 畢 猶此他普通各種の打方を知得んと欲せば予の編輯圍碁道玄るべ稽古本置碁の部を研究詰記し而して其變化理由手毎の意味を知らんと欲せば同く圍碁獨習定石解のいろは符合と道玄るべ同くいろは符合とを引合せ研究有たし將又置碁のみにては片羽碁打なれば次局に相先初歩の打方及び相先定石に準ひ例の如く手毎に其理由を説明し完全たる圍碁の打方を導引益々碁道の隆盛を希望する處なり

○相先初歩の打方を示せば黒東角へ①と打を小目と云ふ白南角へ②と打しを高目と云ふ黒北角へ③と打しを目脱と云ふ此三種の外最初打出の手なしとす又白西角へ④と打しも同小目なり此時黒東角へ⑤と打しを小斜走縮と云ふ此時白⑥と打を高縮と云ふ但し初に⑥の處へ打後に⑦の處へ打も同稱なり此時黒⑦と打しを目脱高縮と云ふ次に白⑧と打しを小目大斜走縮と云ふ此如く四角を互に縮を相縮と云ふ古碁に間々看處なり之即ち手割にして同等の地位を相互に占領せしと雖も黒先手を持居丈黒方優等なりとす又①②③④と相互に明角を占頭するを肝要とす此明角先着は間さへ有ば⑤⑥⑦⑧の如く縮を目的とするを要す此場合にては黒九に啓を大場とす如何となれば此目下は黒



より打も白より打も自分の地位を擴張すればなり故に之を大場とす此時は黒より⑨に掛を含たれば白⑩へ啓を普通とす此時黒⑪の啓は西角の白大斜走縮なれば⑫に詰を含しなり白も之を知り⑬に啓は是又普通なり又此時は白より⑭へ打黒⑮に受白⑯の處へ啓手有を以て黒⑰に啓⑱の打込を防しなり此時白⑳へ高く打しは意味あり之を低く㉑へ打は不可なり其時は黒㉒に啓而して㉓に打込を含ばなり故に㉔へ高く打を可とす此時黒㉕に打時は白㉖へ尖附黒㉗に立白㉘へ綽黒㉙に押し時白此所手抜にて㉚へ啓大場の占領を含たれば黒も之を知り㉛の處不打して南角へ㉜と頂白㉝へ押黒㉞に綽白㉟へ棒粘黒㊱に啓は相先石立普通の手順とする處なり然るを白若し㊲へ不押しして外より㊳へ押し時は黒㊴に綽白㊵の處へ棒粘の時黒㊶に尖白㊷へ附黒㊸に尖白㊹へ綽黒㊺に押し争となりては白の地面中にして白の利益多々なり爰を以て圖の如くなるを穩當とす此時白東角へ㊻と附黒㊼に綽白㊽へ引黒㊾に下り白㊿へ曲り黒㊱に行るは白㊲へ附し時の普通の結果なり此時白㊳の立場合よし如何となれば黒より西角へ㊴に打掛る手順を防尙北角㊵の肩打を含たればなり此時黒㊶の啓は局中の大場とす爰に序の打方及び布石の大略を示す處なり此如く一手を下すも意味を含打を棋法とす尤も意味なきは空手として不取處なり

○前局に於て序の打方及び布石の大略を示したれば此上は相先の定石は碁を打の財量なれば其定石に準ひ例の如く説明すべし

○第一東角へ黒一と打しを高目と云ふ之は

○の處へ縮を目的と爲たれば白之を縮らせ

じと○へ打し時黒三と打しを内附と云ふ此

時白四へ縛しは五の處へ縛込を含たれば黒

五に引しは六に押を含たれば白六の掛粘定

例にしてよし何なれば此時黒七に押れば白

八へ縛 黒後手となれば序の布石中九を押

る暇なきものとす故に黒七に啓地位を占領

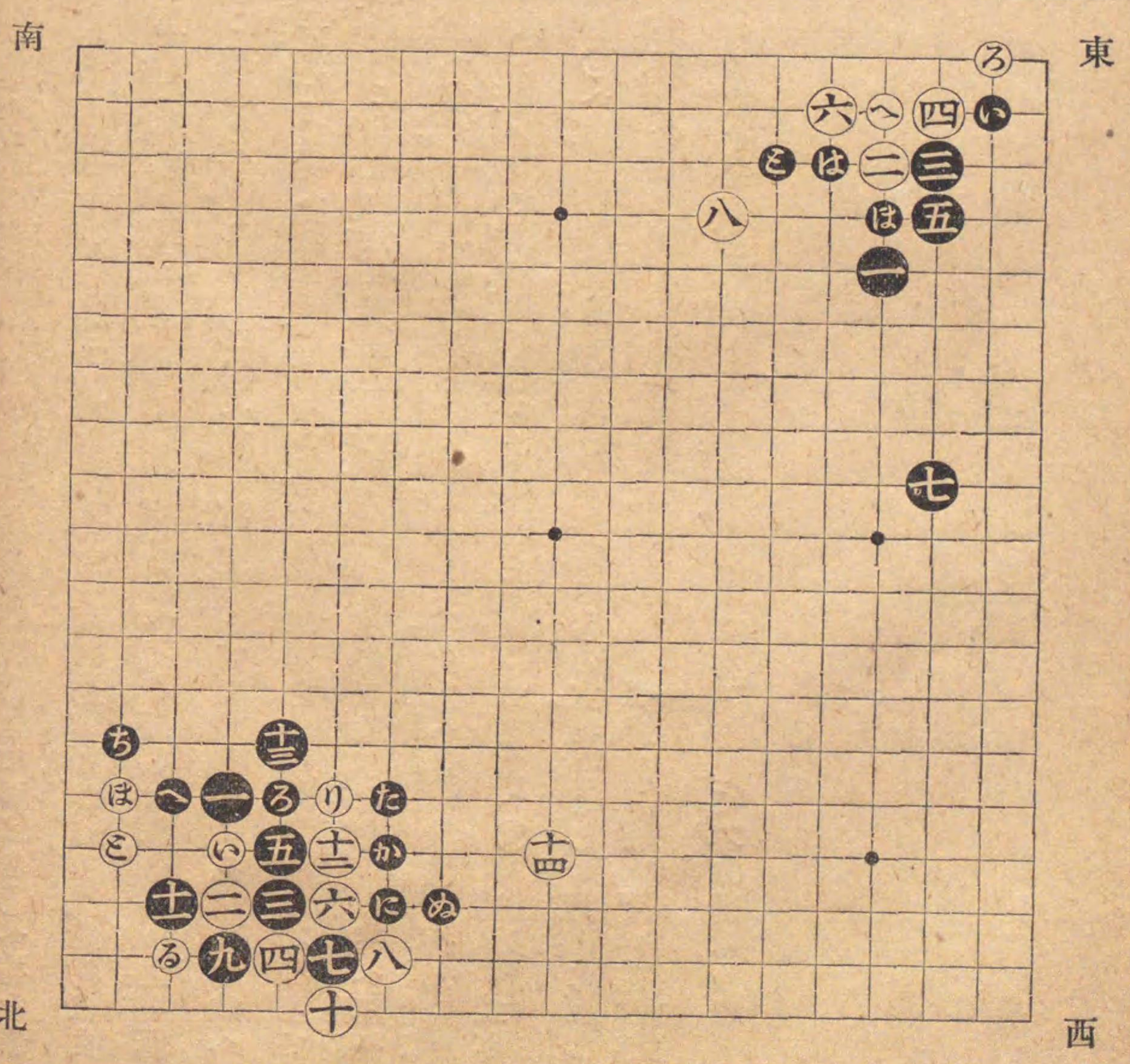
したり又白六の掛粘を九の處へ行るは俗手

にして不可なり何となれば此時黒十に附白

六の處へ縛 黒十一に當白十二へ粘し時黒十二

行る時は白底くなり大に不可なればなり故

に白は十三へ掛粘は古來の定例とす此時白も



○第二北角へ黒一の着手は即ち高目にして白二と打し時黒三と打しを外附と云ふ此時白四へ縛 黒五に引は定石なり然るを黒五に不引して六の處へ並は俗手にして不可なり何となれば此時白六へ突當黒七に並白七の處へ行出

黒八に並白九へ斜走し黒十に突當白十一へ引黒十二に押し時白十三の處へ突出黒十四の處へ押白十五を切時は黒十六の處へ押

るも角の白完全たる活なれば黒兩斷となり大に不可なれば黒は十六の處へ並手なしと知べし故に黒は十五に引を古來

の定例とす此時白十六へ縛 黒十七も又定則なり然るを白十七の處へ並出は俗手にして不可なり何となれば此時黒十八の處へ

掛白十九の處へ行出黒二十に行る時は白底くなり不可なればなり又白二十一へ縛し時黒二十二を切しは内外振替りの手段なり

然るを黒二十三の切を二十四の處を切は不可なり何となれば此時白二十五へ押黒二十六を切白二十七へ取黒二十八の處征に掛し時白東角

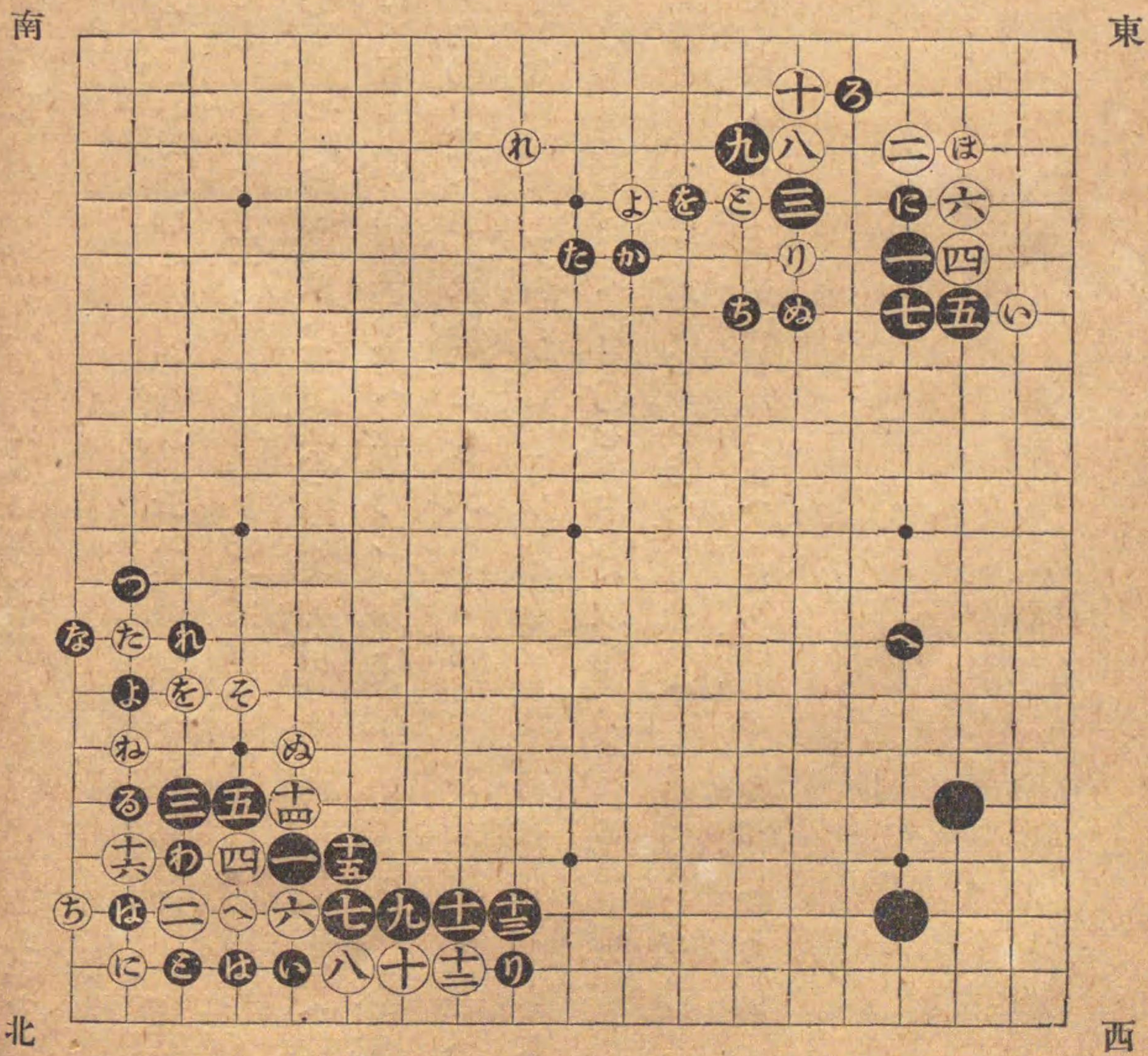
へ征當を二手打越患あればなり故に圖の如く黒二十九を切白三十へ押黒三十一を切白三十二へ取黒三十三に縛は三十四に掛を含たれば

白三十五へ押しは又三十六の處へ掛を含たれば黒三十七に尖しは尙三十八に掛を含たれば白三十九へ啓即ち同等の地位を得たる定石と

はなりたるなり

○第三同く高目の變化を示すべし黒東角へ

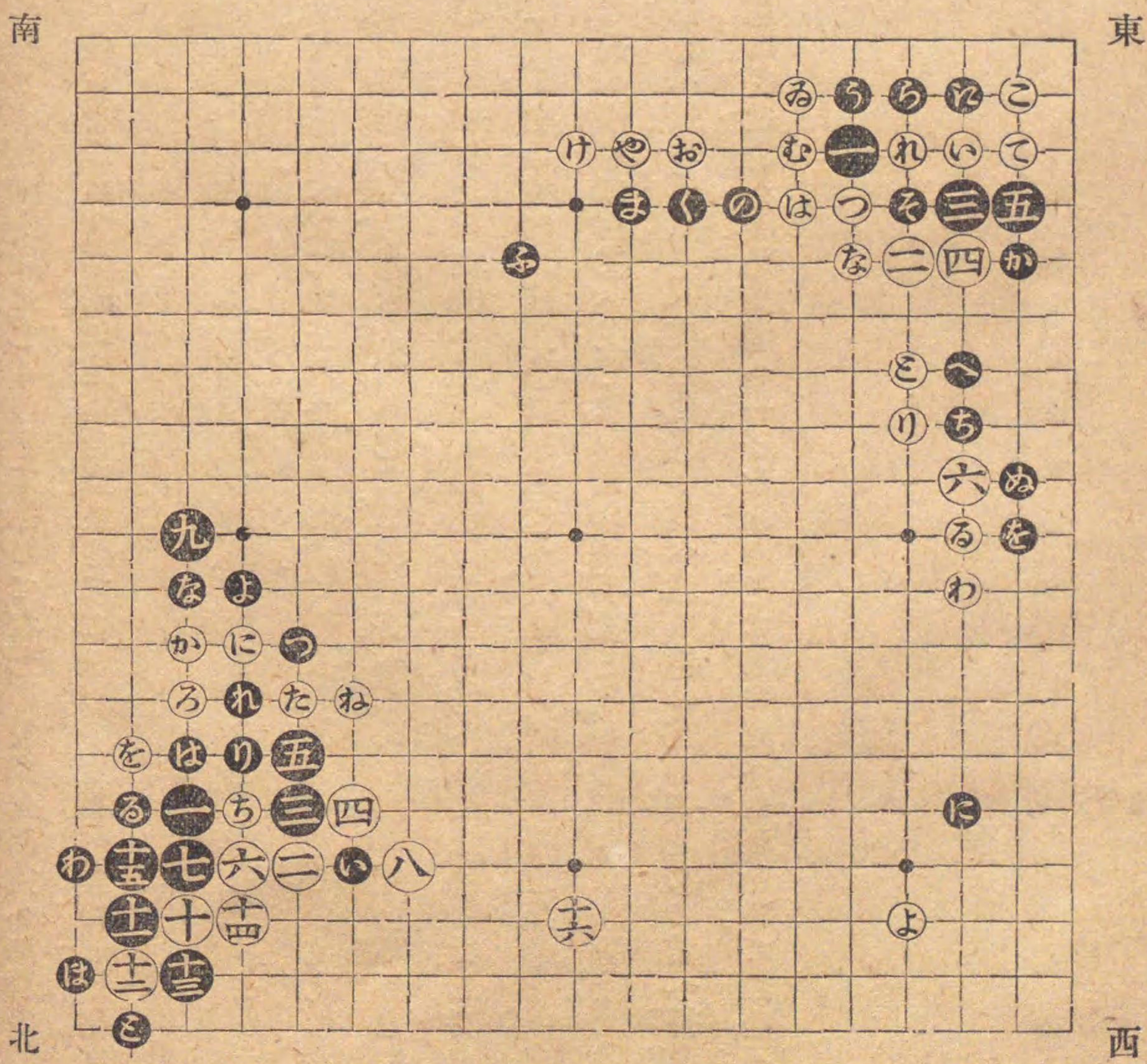
①と高目に打白②へ打し時黒③と打しを斜走掛と云ふ之は左右布石の模様を照し手段を巡し打を要す假令ば西角●の邊に黒の布石在場合の時東西間へ黒の地勢を得の手段として打を可とす白④へ頂しは⑤の處へ行出を含まれば黒⑥に押白⑦へ引しは⑧へ綽を含まれば黒⑨に粘之を防し時は黒より⑩に斜走を含まれば白⑪へ頂之を防たり此時黒⑫に押白⑬へ下るを普通の定石とす此時黒西角に圖の如く目脱に●の布石在時は黒⑭に當白⑮へ粘し時黒⑯に打地勢を張を可とす此時白⑰を切ば黒は⑱の二子を捨て⑲に打白⑲へ追手と綽なば黒は之をも不粘して⑳に押し時は黒より㉑に綽有ば白㉒の處へ行之を防し時黒㉓に掛白㉔へ押黒



⑫に並白⑬へ斜走するに至りては黒⑭と高目に着手の目的を達せしものとす總じて相先に於ては明角へ初着の時左右布石の模様を準ひ手段を巡し目的を立着手するを棋法とす故に定石を財量とするを以て定石の裏表の變化を流通に知得するを尤も肝要とする處なり

○第四同く高目へ白三々へ打掛る定石に準ひ例の如説明すべし黒北角へ①と高目に着手し白②と打を三々打と云ふ之は黒の地勢假令ば西角●の如く地位を存する場合に於て白三々へ打圖の如く下より黒地を消手段として往々打出す處なり此時黒③と斜走に掩ひ白④へ尖附黒⑤に押白⑥へ綽黒⑦に二段に押へし時白⑧の處を不切して單に⑨へ綽を可とす此時黒も⑩を不切して⑪に行を例とす白⑫へ並出し黒⑬に行白尙⑭へ並出黒⑮に行し時白⑯を切黒⑰に粘し時白⑱へ尖意味有何となれば此時白手拔なれば黒⑲に頂白⑳へ押黒㉑に置白㉒を粘黒㉓を切白㉔の處へ押黒㉕の處を切白㉖へ取黒㉗に先手に押る手有ば白㉘へ尖しなり此時黒手拔となりしに白取氣を發し㉙へ行るは不可なり如何となれば其時黒㉚に押白㉛へ斜走し黒㉜へ突込白㉝の處へ粘黒㉞の處を切白㉟の處へ押黒不取して㊱に頂白㊲へ押黒㊳を切白㊴へ引黒㊵に押白㊶へ駈込黒㊷へ一子を取も已に㊸の處へ切在を以て白の不可となればなり

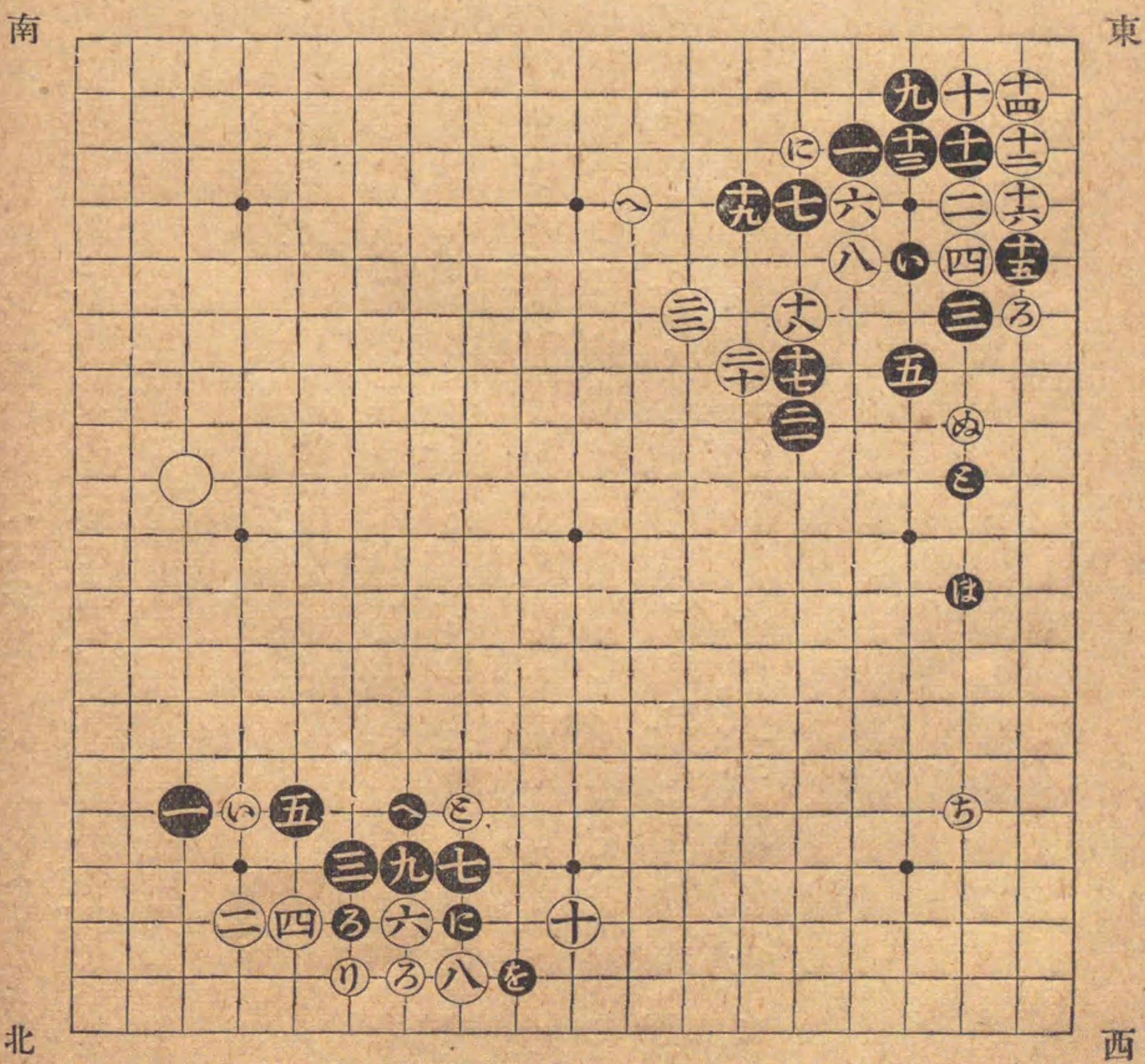
○第五目脱高掛の定石に準ひ説明すべし黒東角へ①と着手を目脱と云ふ之は③の處へ縮を目的とす故に白此縮を防②と打しを高掛と云ふ之は④或は⑤へ掛を含たれば黒③と打之を防たり此時白④へ押しは猶⑥へ夾を含たれば黒⑤に下り地位を占領爲たれば白も⑥へ啓地勢を張しは之普通の定石とす此時黒⑥の處へ尖は形よき手なれども急務にあらず石立中はぬるし不打して西角へ⑦と打を可とす然るを黒⑧の處へ尖時は白手抜にて西角⑨の處へ打此時黒⑩に打込なば白⑪へ頂黒⑫に突當白⑬へ押黒⑭に縛白⑮へ行黒⑯に行出白⑰へ並黒⑱に盤し時白西角を⑲へ縮時は黒の地位底くなりしのみならず白西角へ⑳の處及び㉑の二手打越となれば黒は㉒の處へ尖をぬるしとす然れど



も白⑬の處へ押し時は黒必ず⑭の處へ尖を肝要とす何となれば此時黒⑭の處へ不尖手抜の時は白⑬へ頂越黒⑮に出白⑯へ押黒⑰の處へ縛白⑱へ粘黒⑲に縛白⑳を切黒㉑に粘白㉒へ押黒㉓に並白㉔へ啓黒㉕に押白㉖へ行黒㉗に押白㉘へ行黒㉙に斜走せし時白㉚へ打時は黒死石となるなり何となれば黒㉛に打ば白㉜へ突當又黒㉝の處へ取ば白㉞に當る手有とす

○第六同く高掛を示す黒北角へ①と目脱に打し時白②へ高掛に打し時黒③に頂しは變化なり之は前面に地位を得の手段なり白④へ縛黒⑤に行は⑥の切を含たり白⑥へ行黒⑦に押し時白⑧へ掛粘よし此時黒若し⑨の處へ行る時は白切を含るへ打黒⑩に突當白⑪へ尖手あれば黒⑫に啓し時白⑬へ押黒⑭に縛白⑮へ二段押し黒⑯を切白⑰へ粘し時黒⑱の粘必要なり如何となれば黒⑲に不粘して⑳に縛る時は白㉑の處を切黒㉒に一子を取白㉓へ突出黒㉔に押し時白㉕の處を切黒㉖に押白㉗へ追手と押黒㉘に一子を取し時白㉙の啓よし此時黒㉚に尖掛れば白㉛へ頂黒㉜に突出せば白㉝の處へ押黒㉞を切ば白㉞へ行る手有り又黒㉟に不尖して㊱の處へ頂れば白㊱の處へ駈出黒㊱を切ば白㊱の處へ突出手有とす故に黒は㊱に粘を必要とす此時白㊱の啓を㊱の處へ行一子を圍取は後手にして悪し此布石中打堅手は不可なりとす

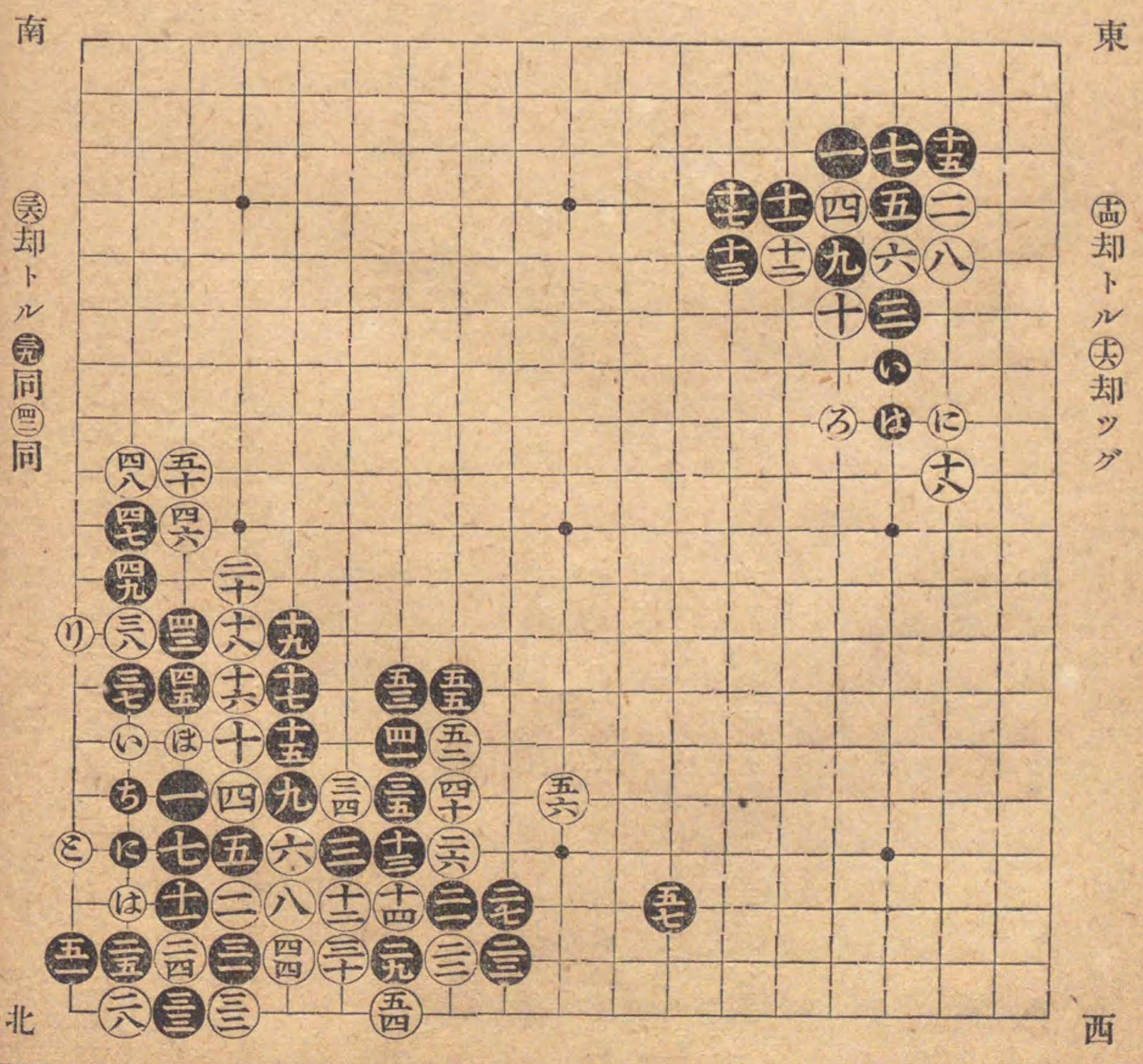
○第七目脱小目掛の定石に照し手毎に説明すべし東角へ黒一と目脱に打白三と打しを小目掛と云ふ此時黒三と打を一間詰返と云ふ之は尖掛を含まれば白六の處へ頂るは普通の形なれども此場合にては悪し何となれば其時黒七の處へ 綽白八の處へ行黒九の處へ並白切を防四へ突當し時黒に三々の大場を押られる患ひ有但し此三々の押は白より押るも黒より押るも押し方の大利益となるを以て白黒相互に三々の押を希望する處なれば白之を慮り先づ四へ突當黒五に尖し時白六へ頂黒七に 綽白八へ並し時黒九の處へ行出も已に白四へ突當在ば返て白より三々の三々を押らるゝを以て黒止なく九に尖白十へ頂黒十一に駈込白十二へ押黒十三に粘白十四へ粘し時黒十五に 綽白十六へ粘し



に至り此大利益有角を白黒相互に其利益を分配せしものとす此時黒五の尖有を以て七に立白に九を切せ先手を取の手段に出たり白も之を知り六の尖附よし之は七の切を含まれば黒九に並之を防し時白十へ 綽黒十一に行し時白十二の掛粘手順妙味有此時黒十三に啓は白十四へ斜走に掩掛又黒十五の處へ啓し時は白十六の處へ詰此時黒十七に受れば白十八へ打黒又十九に不受して西角二十の處へ打し時は白二十一へ二間に啓を可とす此定石は黒三々の押切を目的とし白之を押させじと手段を巡し成立しなり

○第八目脱大斜走掛の定石に照し説明すべし黒北角へ一と目脱に打白三へ小目に掛黒三と打しを大斜掛と云ふ此時白四へ並しは五へ頂を含まれば黒六に尖之を防しは尙七に押を含まれば白八に啓し時黒又七へ打しは九に押を含まれば白十へ尖しは九の處へ突出黒十一に押白十二の切を含まれば黒九に押之を防しは黒十の處へ出十一へ押黒十二の處へ當白十三へ粘し時黒十四に押を含まれば白十五へ啓之を防たり此定石は白十四の並を基礎とし成立しものなれば前面の邊に白の布石在場合に於て白の手段として四へ並を可とす然るを○の處に黒の布石在にも係はらず白四へ並び此結果となる時は黒に大模様を得られ白の不利益は言を俟ざるべし故に左右の布石の模様を看察し手段を巡し定石を活用すべきものとす

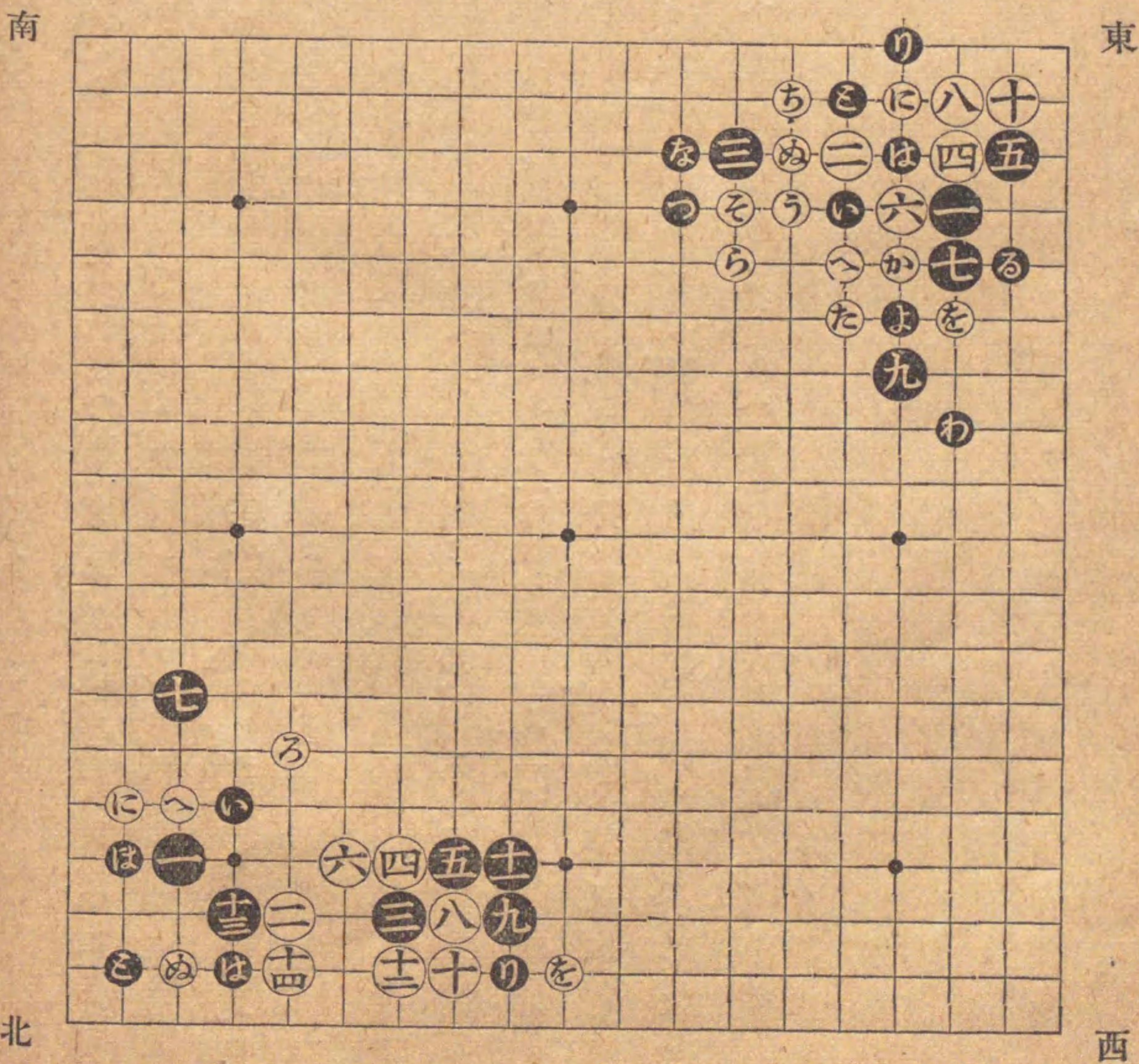
○第九同 目 脱大斜掛の變化を示すべし 黒東角へ一と目脱に打白二へ掛黒三に大斜掛の時白四の頂は前局に變化する處なり此時黒五に馱込白六へ押黒七に粘白八へ粘黒九を切白十を切黒十一に取白十二へ當し時黒十三に綽よし然るを十四へ不打して四の處へ粘は愚手なり何となれば此時白に十五の處へ三々の大場を押られ黒團子形となるのみならず割合上尤も不可なればなり故に黒は十六へ綽るを定例とす此時白十六と四の處へ劫を取黒十七と三々を押白十八と九の處へ劫を粘黒十九を粘白二十へ啓しに至り完全たる定石とはなりしなり此時黒二十一に並出んとすれば白二十二へ掛る手有り又黒二十三に不打して二十四に啓し時は白二十五へ並ぶを以て黒は脱出の功力なきものとす此定石は黒先着にして二十六と三々を押たれ



ば此一局部に於ては黒方何分の優勢なれども左右の配石の模様により損得を定むるものとす

○第十大斜掛變化の定石に照し説明すべし 黒北角へ一と目脱に打白二へ掛黒三と大斜に掛白四へ頂黒五に馱込白六へ押黒七に粘白八へ粘黒九を切しまでは前局に同じ此時白十へ行しは變化にし是より大戦となり此時黒十一と三々を押へるは定例にして白十二へ並黒十三に行し時白十四へ押れば黒黒十五に押白十六へ行黒尙十七に押白十八へ行黒十九へ押しは廿の處へ押る手有ば白廿へ行し時黒二十一に押白二十二へ綽し時黒二十三と二段に押し此時白二十四へ粘黒二十五に押し時白二十六を切しは劫を仕掛る劫立の財量を得手段なり黒二十七に粘白二十八へ綽し時黒直に二十九の處を不切して三十を切し手順よし白卅へ押し時黒卅一を切白卅二へ綽劫を仕掛黒卅三と劫を取白卅四へ劫を立黒卅五に押し白卅六劫取黒卅七に劫を立白卅八へ頂黒卅九と劫を取白四十へ劫立黒四十一に行白四十二と劫を取黒四十三に劫立の處白後の劫立なきを以て四十四へ一子を取黒四十五に粘しは四の附越を防しなり此時白四十六の尖は後の手を慮りてよし黒四十七に附白四十八へ押し黒四十九に引白五十へ粘し時黒五十一の下りは白五十二を切黒五十三に押白五十四の處へ一子を取し時黒五十五抜なれば白五十六へ出黒五十七の處へ押白五十八へ粘し時黒五十九へ下る手有ばなり此時白六十へ押黒六十一に行白六十二へ一子を取黒六十三に押白六十四へ飛黒六十五に啓此所結果となりたるなり

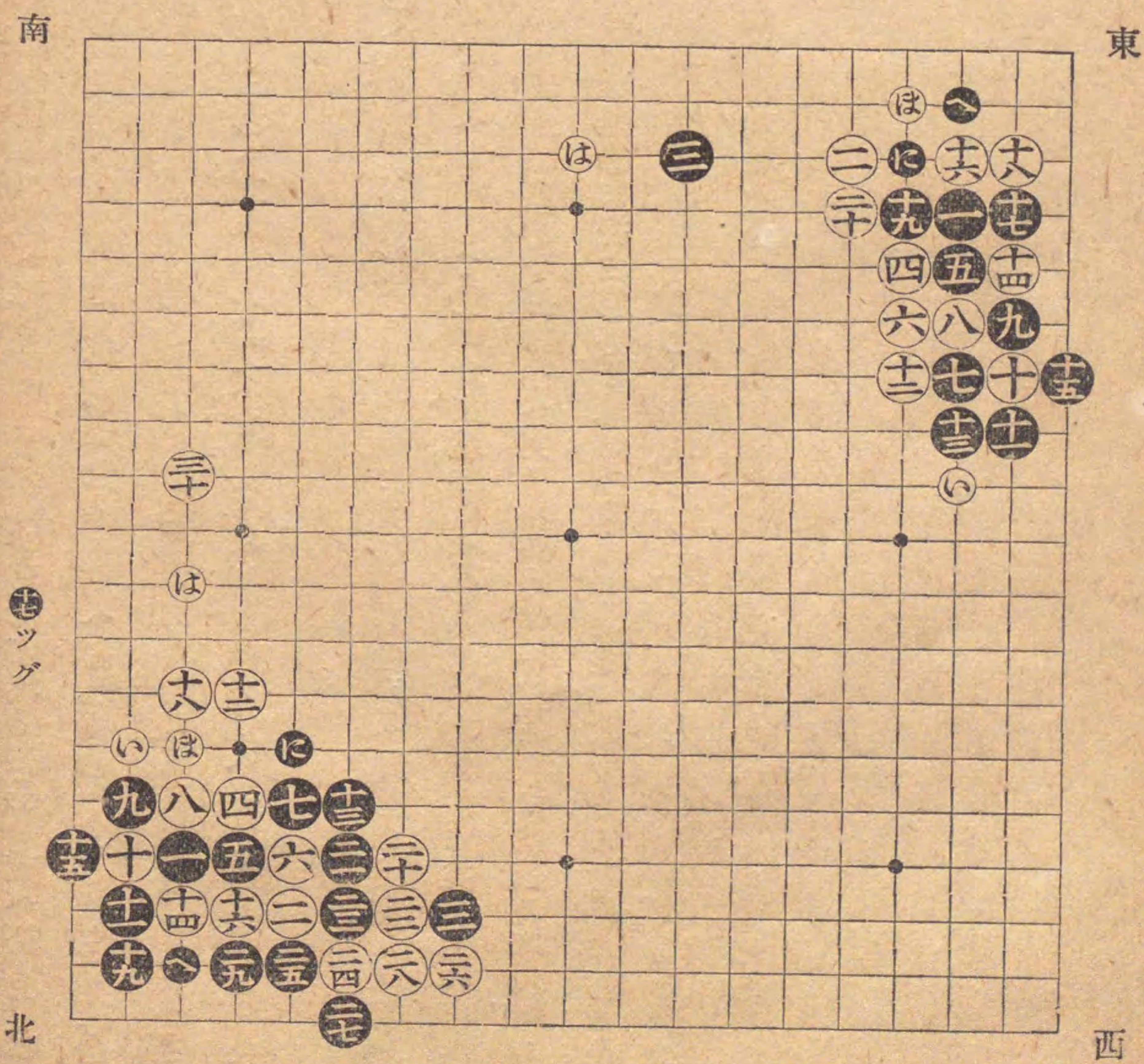
○第十一小目一間夾の定石に照し手毎に説明すべし黒東角へ一と打しを小目と云ふ之は或は二の處へ締を目的とす白は此締を防三と打し時黒三と打しを一間夾と云ふ之は四の處へ頂を含たれば白四へ附黒五に引し時白六の孕れは定例なり此時黒七に引しも定例なり然るを七に不引して八の處へ縛るは俗手にして悪し如何となれば此時白七の處へ押黒八に一子を取白九へ當黒四の處へ粘し時白一へ掛粘黒二を切白三へ押黒四に一子を取し時白五を粘黒六に縛白七へ行るに至ては黒外面を掩はるゝのみならず黒の三の一子浮石となり黒尤も不可となればなり故に黒は八の處 縛の手なく七に引を定例とす此時白八へ行黒九に斜走よし此時白十へ押るも又定例なり然れども黒九に



斜走せず二間に啓し時は白は十へ不押手抜にて他の要所へ打を可とす如何となれば其時黒十の處へ押し時は白十一へ押へ黒十二に縛白十三へ押黒十四の處へ行し時白十五へ頂黒十六に縛し時白十七の處へ押込黒十八を粘し時白は完全たる活なれ猶手抜にて他へ着手する手順となればなり然るを黒九と斜走の時白十へ不押手抜の時は黒十の處へ押白十一の押きかざれば直に十二の處頂黒十三の處へ縛白十四へ立黒十五の處へ突當白十六へ押黒十七の處へ縛る時白浮石となり活の結果不定なりとす

○第十二同く一間挾を示す白北角へ一と打白二へ掛黒三へ打しまでは前局に同じ此時白四へ頂しは變化なり黒五に縛白六へ引し時黒七の二間啓定例なり然るを七へ不啓して九の處掛粘時は白七の處へ打黒八に尖白九へ掛黒十の處へ尖附白十一の處へ下り黒十二に押し時白十三へ斜走し黒十四に押白十五へ突當黒十六に活を打に至ては黒の不利言を俟ざるべし故に黒は七に啓を定例とす此時白八を切黒九に押白十へ下し時黒十一に粘は定例なり然るを十二に押るは俗手にして悪し何となれば此時白十三へ曲る時は黒に十四に切を生じ之を粘ば即ち一手の損となればなり故に黒十五に粘白十六へ曲黒先手となり十七に尖附白十八の下りは後の利益を含てよし其利益は十九へ飛込及び二十へ先手の飛出し有とす故に白黒同等の地位を得しものとす

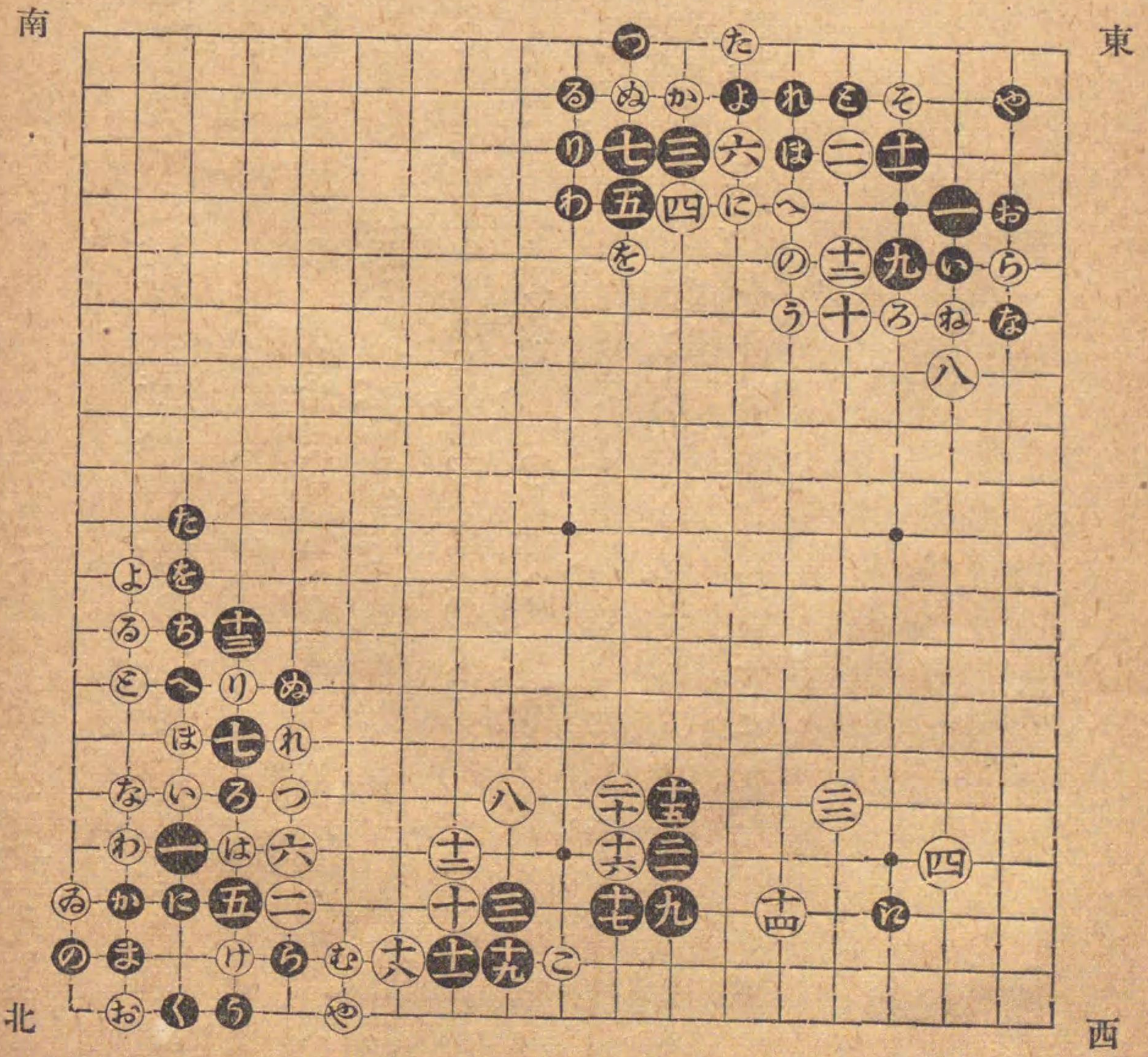
○第十三小目二間夾の定石に照し手毎に説明すべし黒東角へ一と小目に打白二へ掛黒三と打しを二間夾と云ふ此時白四へ斜走に掛黒五に押白六へ行黒七に啓白八に突出黒九に押白十を切黒十一に押白十二へ押黒十三に粘しは定例なり然るを十四の處へ取は悪し何となれば此時白十五の處へ當黒十六の處へ粘し時白十七へ行る時は黒底なり不可なればなり故に黒十八に粘白十九を切黒二十に一子を取し時白二十一の頂是又定例なり然るを白若し二十二の處へ行出せば黒二十三の處へ行白手足すとなるを知べし故白二十四へ頂黒二十五に押し時白二十六の押は急務にあらざれば手抜にて二十七詰も可なり此時黒直に二十八の處へ突出白二十九の處へ押黒三十へ出白三十一へ押るも黒三十二を切手なく三十三の處へ押るの外なし然れども三十四の押は此白の完全たる



る活を打場合に於て四へ押る手順を示したるものと知るべきなり抑も此定石は二代目算悦本因坊時代發現し三百年來今に打來る貴重の定石として賞賛する處なり

○第十四同く二間夾の定石の變化を示す黒北角へ一と打白二へ掛黒三と二間夾に打白四と斜走に掛しまでは前局に同じ此時黒五に突出は變化なり白六へ押し時黒七の切は無理筋なり此時白八へ押へ黒九に粘し時白十の切肝要なり然るを十一へ押るは俗手にして不可なり何となれば其時黒十一の處を粘白十二の處へ掛粘し時黒十三の處へ頂白十四へ啓し時黒十五に行白十六へ粘し時黒十七の處へ押る時は黒完全たる活にして外面の白浮石となり尤も不可なり故に白十八の切を可とす此時黒十九に押白二十へ啓黒二十一に並白二十二の切手順なり黒二十三に取白二十四へ當黒二十五と二十六の處を粘白二十七へ並は二十八の處へ押を合たれば黒二十九へ行しを若し三十に粘る時は白三十一の處へ押而して三十二の處へ飛出手有は黒三十三の行は愚手なれど止なきなり此時白三十四と夾間へ打黒三十五に出白三十六へ行黒三十七に突出白三十八へ押黒三十九を切し時は白の四子は黒に粘の愚手を打せ已に用濟となりたれば白之を捨四十へ粘黒四十一に粘白四十二へ粘し時黒四十三と四子を圍ひ取し時白四十四へ啓内外振替りは白方大に優勢とす如何となれば黒四子を取と雖も僅に十五目の利徳を得白は左右に地位を得たれば最も優等なりとす

○第十五同く二間夾の變化を示す黒東角へ
 一と小目に打白二へ掛黒三と二間夾までは
 前局に同じ此時白四へ頂は即ち變化なり黒
 五に 綽白六へ押黒七に粘は定例なり然る
 を黒五に不綽して六の處へ行出し時は白九
 の處へ掛黒八に押白九へ並黒八の處へ啓白
 〇へ押黒九に突當白〇へ押黒〇に 綽白〇
 の處へ行黒五の處へ 綽し時白七の處を切
 黒 〇に 綽白〇へ下り黒〇に押白〇へ 綽
 黒〇に粘し時白〇へ曲黒〇に押白〇へ 綽
 黒〇に粘白〇へ押黒〇に取を掛し時白〇へ
 突出黒〇に押し時白〇を切手有を以て黒は
 五に 綽け圖の如く打を定例とす此時白八へ
 詰黒九に尖白十へ掛し時黒直に十一に尖附先
 手に活を打しは新式にして舊式は黒十二の前
 先づ〇の處へ出白〇へ並黒〇に尖附白〇へ

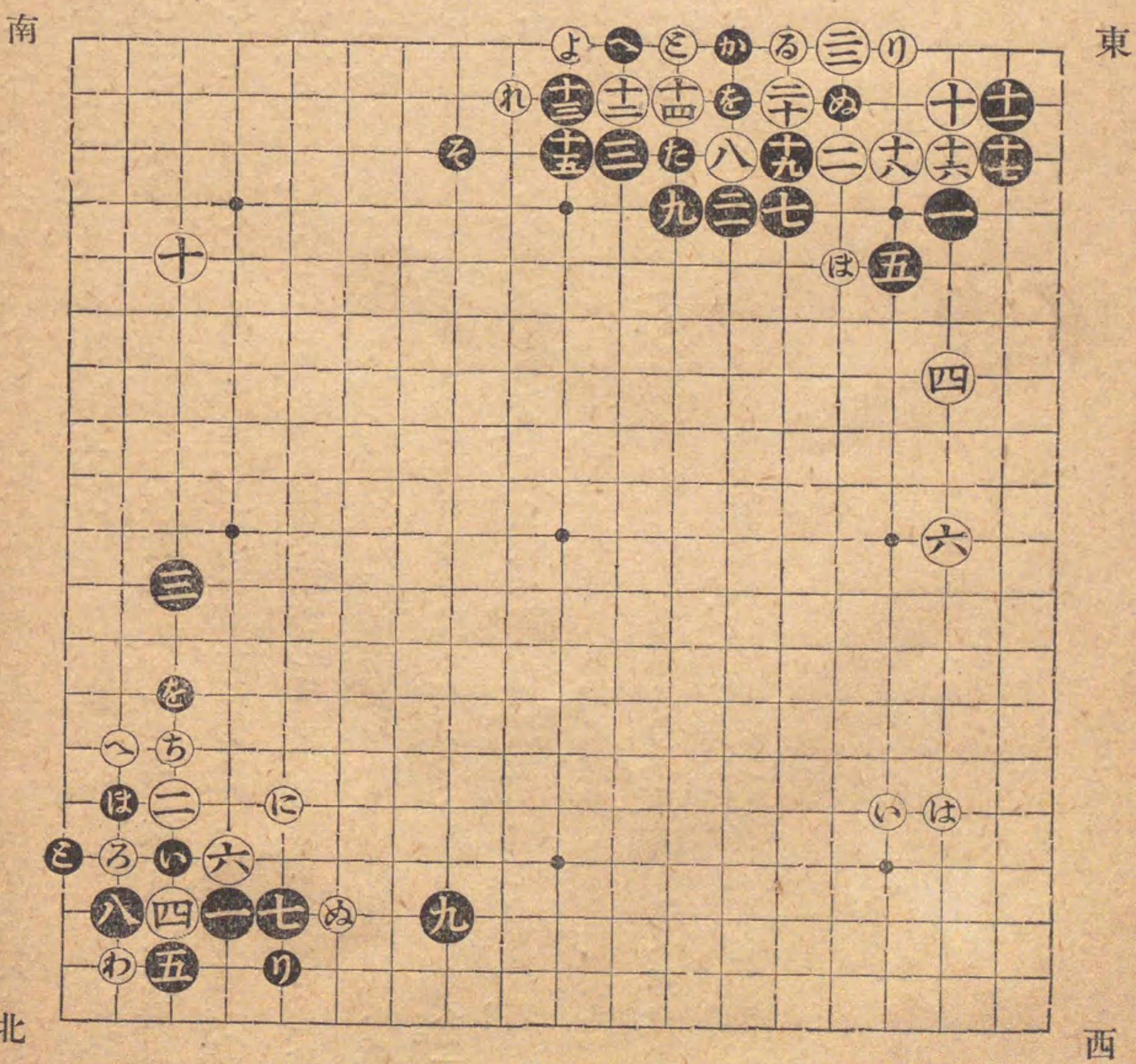


押る手順なりしを明治に至り〇へ不押し〇の處へ下り白〇の處へ押白〇の處へ斜走し黒〇に押白〇の處へ突當
 黒〇に眼持の結果となりては黒後手となるを以て新式に改良せしものと知るべし

○第十六三間夾の定石に照して手毎に説明すべし黒北角へ一と小目に打白二へ掛黒三に打しを三間夾と云ふ此時白
 手抜にて西角へ四と打し時黒五に尖附は定例なり此時白六へ立黒七に斜走し白八の帽子は十へ附を含まれば黒九
 に啓白十へ附黒十一に 綽白十二へ引し時黒十三の啓肝要なり如何となれば此時黒十四に不啓して手抜の時は白直に〇へ
 附越黒〇に押白〇を切黒〇に粘白〇へ行黒〇に押白〇へ 綽黒〇に行し時白〇の切は手順なり黒〇に押白〇へ行
 出黒止なく〇に並し時白〇へ 綽黒〇に押白〇へ行出黒〇に行し時白〇を切黒〇の處へ取白〇へ當黒〇の處へ二
 子を粘し時白〇を粘黒〇に 綽白〇へ押黒〇に掛粘白〇へ 綽黒〇に押し時白〇へ置時は駭殺の定石の黒死石と
 なるなり何となれば黒〇に突當れば白〇へ下り黒〇に眼持に打ば白〇へ打込手有ばなり故に黒〇の啓を肝要とす
 此時白西角を〇へ大斜走縮に打黒〇に立白〇へ覗し時黒〇の押は〇へ打を防しなり此時白〇の押同く〇へ打を
 含たれば黒〇に粘白〇へ押黒〇の粘は〇に打込を含まれば白〇へ打しなり此定石は四代目道策本因坊始て打出處な
 り

○第十七三間夾詰返の定石を示す黒東角へ

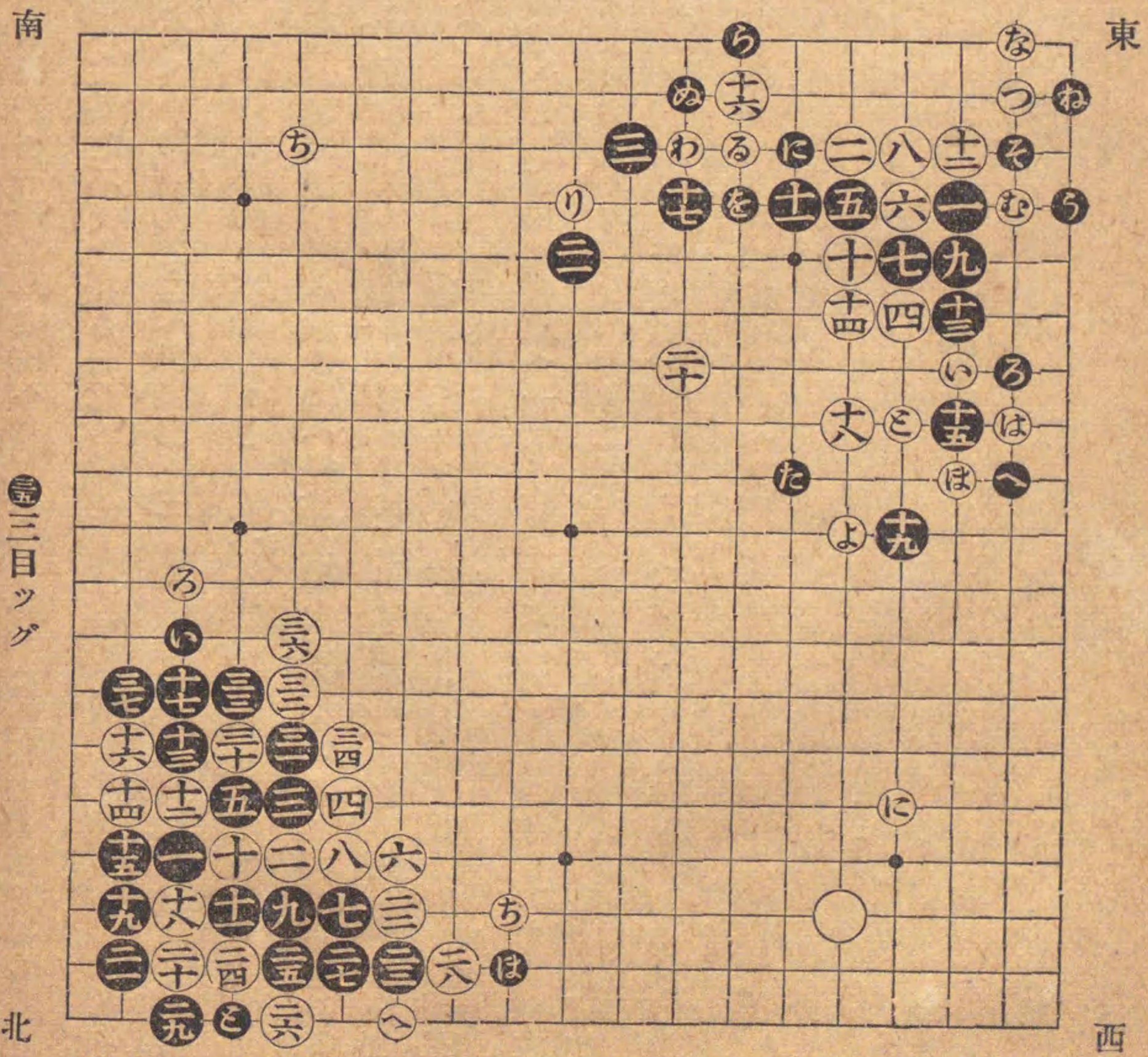
①と打白②へ掛黒③と三間夾に打白④と打し詰返と云ふ此詰返しは白西角に⑤又は⑥に布石在場合に手段として打べきなり猶白⑤の處へ掛を合たれば黒⑤に尖白⑥へ啓黒⑦に掛白⑧へ啓黒⑨に尖掛白⑩へ斜走し黒⑪に附し時白⑫の頂手順なり黒⑬に押白⑭へ白引⑮に粘白⑯へ突當黒⑰に押白⑱は⑲へ附越を合たれば黒⑲に突出白⑳へ押し時黒㉑の押㉒の頂越を防而して妙味を合たり如何となれば此時白㉓へ尖活を不打手抜の時は黒直に㉔に縛白㉕へ押し時黒㉖の處へ打白盤を防りへ尖附黒㉗に立白㉘へ押し時黒㉙に打込を以て白死石となり又白㉚へ不押しして㉛の處へ掛粘し時は黒㉜に飛込白㉝の處へ押し時黒㉞の處へ突込白㉟の處



へ二子を取し時尙黒㉞の處へ打込白㉟へ一子を取黒㉟へ一子を取白㊱へ縛黒㊲へ掛るに至ては自活となるも一間通りを這出形底く尤も白の不可なれば白は㊳へ尖活を不打を得ざるなり

○第十八同く三間夾の定石に照し説明すべし北角へ黒①と打白②へ掛黒③と三間夾の時白④へ附しは前局と變化する處にして尤も意味有此時黒⑤に縛白⑥へ孕れし時黒⑦に不行して⑧の處へ縛るは俗手にして不可なり如何となれば其時白⑦の處追手と縛黒⑧に取白⑨へ當黒④の處へ粘白⑩へ掛粘黒⑪を切白⑫へ押黒⑬に一子を取白⑭へ粘黒⑮に縛白⑯へ行るに至りては白に外面を掩はれ黒尤も不利となれば黒は⑰に行るを定例とす此時白⑱へ下り黒⑲に啓し時白は此處手抜にて南角へ⑳と着手は己に白㉑へ附る時此手抜手段を慮りしものとす如何となれば此時黒㉒に詰れば白㉓へ押へ又黒㉔の處へ押れば黒㉕の處へ一間に啓完全たる活となればなり但し此白④へ附⑥へ孕れ⑧へ下る定石は一間夾と此三間夾の時間々打出なれども二間夾の時は不可なり然るを近來無教育の碁打は往々打出を見る處なれども尤も不可なり何となれば二間夾の時此定石を打手抜の時は黒㉖の處へ押し時白㉗の處へ啓事不能浮石となり中央に活を求むるの患ひあれば尤も心得べき所なり

○第十九同く三間夾大斜掛の定石に準ひ説明すべし黒東角へ①と打白②へ掛黒③と三間夾の時白④へ打しを大斜掛と云ふ此三間夾の時の大斜掛と三間夾なき時の大斜掛とは意味大に異れば混合すべからず此時黒⑤に頂白⑥へ駈込黒⑦に押白⑧へ粘黒⑨に粘白⑩を切し時黒⑪の行は三間夾の時は必ず行るを定例とす此時白⑫の押も定例なり此時黒⑬に押白⑭の粘は⑮に押黒⑯に縛し時白⑰へ二段に押る手有ば黒⑱に啓白も⑲の押を防⑳へ斜走は㉑の處へ尙斜走を合たれば黒㉒に尖此時時白㉓へ啓しは㉔へ附黒㉕に縛れば白㉖へ押る手有ば黒㉗に斜走せし時白㉘の打は㉙の急所へ打を合たれば黒㉚と兩斜走に打之を防しは意味有如何となれば此時時白南角㉜の邊に着手の時黒㉝に尖



三目ツグ

附白⑲へ立黒⑳に押るも己に黒㉑に打在ば白㉒へ突込手なければ㉓へ頂黒よりの煽掛を防し時は黒㉔へ縛白㉕へ押し時黒㉖に二段に縛劫仕掛に打白劫を嫌ひ㉗へ行れば黒㉘に縛るを以て白止なく㉙を切黒㉚に縛大劫となりては白の不利言を俟ざるべし之即ち黒㉛の兩斜走の手に合處なり

○第二十小目一間高掛大塗の定石に照し説明べし黒北角へ①一小目に打白②と打しを高掛と云ふ此時黒③と打を上頂と云ふ白④へ縛黒⑤に引白⑥へ掛粘黒⑦に靦白⑧へ粘しは共に定例なり然るを白⑨を粘黒⑩の處へ押るは俗手して不可なり何となれば此時黒⑪の處へ縛白⑫の處へ押黒⑬の處へ粘白⑭の處を粘ば黒⑮の處を切手有ばなり故に白⑯に粘黒⑰に引白⑱の處へ押るは普通なれども西角〇の處に配石有場合は白⑳へ突當黒㉑に押白㉒を切黒㉓に縛白㉔行黒㉕に押白㉖へ曲黒㉗に粘白㉘へ押黒㉙に取を掛し時白㉚を切黒㉛に押白㉜へ縛よし此時黒㉝の處へ曲出れば白㉞の處へ粘手有故に黒㉟へ一子を取白㊱へ追手と押黒㊲と粘白㊳へ行黒㊴に押は急務なり何となれば黒㊵に不打時は白㊶の處へ行出黒㊷へ行れば白㊸へ頂手有ばなり此時時白西角を㊹へ高締に打黒㊺へ附れば白㊻へ縛黒㊼に取し時㊽へ縛るなり之を大塗の結果とす

○第廿一同く小目一間高掛内頂を示す黒東角へ●と打白○と一間高掛の時黒●と打しを内頂と云ふ此時白○へ押黒●に引白○へ粘は古來の定式なり然るを近來○の粘を○へ掛粘を屢々見處なれども之は謂れなき手なり何となれば此時黒●に打白○へ下りし時黒●に覗白○の處へ粘し時黒●の處へ尖時は白の形働なき愚形となればなり又黒●の尖肝要なり之を不打白○へ附黒●に綽し時白○へ當黒●に掛粘し時白○へ行る手有ばなり爰に至り置碁相先打方の大略を示したれば局を止め畢

但し此以上置碁相先普通定石の變化を知得と欲せば予編輯の道宏るべ稽古本に就て定石の打方を暗記し而して其定石の理由を詳にせんと欲せば同く定石解講義を研究あれ

編輯順序辨明

抑モ愚老編輯スル處ノ棋譜七種十部ニシテ其編輯ノ目的タルヤ棋道初心者ノ教科書タラン事ヲ欲スル處ナリ故ニ自然研究ノ順序アリ其順序ヲ示ス事左ノ如シ

○第一圍碁の道しるべ

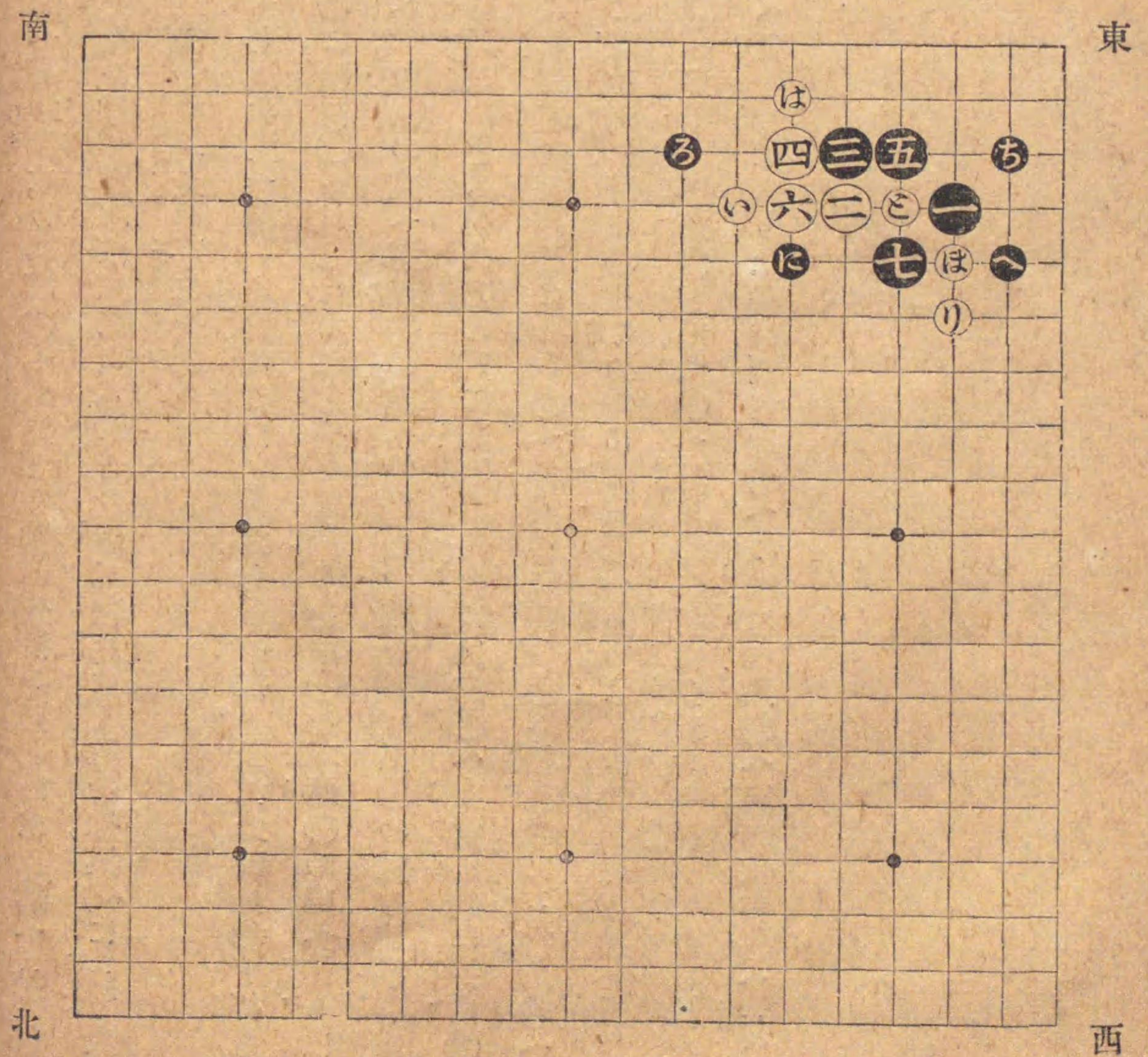
全 定價參拾錢

此ノ譜ハ最モ初學ニシテ棋道ノ何モノタルヲ辨へ不知者ニ對シ根原ヨリ圖案ヲ以テ説示シ圍碁ノ何タル事ヲ知ラシメ而シテ置碁ノ打方相先ノ打方ニ至テハ序ノ布石中央ノ戰ヒ大打堅小打堅ノ順序及ビ打終リ作り上ゲ勝負ヲ見ルニ至ルマデヲ詳細圖ニ照シ説キ明ス處ナリ右序ノ石立ハ置碁相先共ニ定石ヲ基本トシ組織爲シタルナリ故ニ相先置碁ノ定石ヲ一通リ不心得不能ナリ爰ヲ以テ本譜ニ併記ノ定石稽古本ニ就テ獨習譜記スルヲ要ス尤モ僅ニ置碁四十八角相先四十八角ナリ但シ各角ニいろはノ符合アリ之ハ定石解ニ照合セノ便トス

○第一圍碁獨習定石解

全 定價五拾錢

此譜ハ定石稽古本ニ就テ獨習譜記ノ曉キ其定石ノ理由及ビ變化ヲ知ラント欲セバ定石稽古本ノいろは符合ニ照シ熟讀研究スル時ハ自然ニ定石ノ意味ヲ了解スルモノトス尙第一附録ノ目下詰異變化八局ハ秀甫本因坊發明目下詰ノ原理ヲ示シタルナリ第二附録ハ相先ニシテ締リ在處へ打掛ル手順及ビ時宜ヲ示シタリ第三附録ハ打堅ノ損得ニシテ對局ノ節大打堅小打堅ニ關シ最モ必要トス



○第三圍碁玄妙落穂集

全 定價四拾錢

此譜ハ明治棋形普通ノ定石稽本ニ洩タル古碁定石中尤モ玄妙奇々の定石ヲ拾集シ並ニ古來斯道大家ニ口傳秘密トシ藏スル種類凡四十七種ニ變化ヲ加合シ六十二局ヲ記載セシモノナリ

○第四自九目置碁必勝石立集

前編 定價四拾錢

此譜ハ新式ニシテ古來ノ石立ヲ省^{はぶ}キ角ノ置石ノ堅固ナルヲ基礎トシ白ノ命令ニ不應シテ専ラ手割(即チ布石損得ノ割合)ヲ以テ石立ヲ組織シ其布石ノ理由ヲ詳細ニ説明シ尙中央ノ戰ヒ及ビ大打堅^{よせ}ノ手順ヲ示シタルバ此布石ノ理由ヲ了解スルニ至レバ四目以上置ク時ハ上手ニ對スルモ敗ヲ取ノ患ナキモノトス

○第五自三目置碁必勝石立集

後編 定價四拾錢

此譜ハ四子以上ト異リ三子ハ一角ノ明角ヲ存スレバ舊式ノ如ク白明角へ着手スレバ黒直ニ之ニ掛リテハ白ノ手段ニ掛リ紛レ易シ爰ヲ以テ専ラ目下詰ヲ利用シ手割ヲ主トシ勤メテ混戰ナラザル様手段セシモノトス又二子ノ部ハ明角二ヶ所ニシテ最モ先ニ近シ故ニ必勝ノ石立組織困難苦心ノ曉キ爰ニ考案ヲ下スハ有名ナル因碩^{いね}真似碁^{まね}ノ意味並ヒニ目下詰ノ原理トヲ配合シ手割ヲ主トシ尙置石一目ニ對シ地位十目ヲ存スル理由ヲ根元トシ必勝ノ石立ヲ組織セシモノトス

○第六新式相先石立俗解集

全 定價五拾錢

此譜ハ故高橋杵三郎棋伯起家故村瀬秀甫棋伯ノ合議ニ成立シ古今ノ妙譜ニシ相先石立五十局へ秀甫棋伯選出同ク拾局ヲ加へ合シテ六十局へ愚老ノ解釋ヲ加へ尙附録トシテ秀甫杵三郎兩棋伯對局二面及ビ有名ナル水谷高橋兩棋伯ノ爭碁拾壹局ヲ掲載スルモノトス抑モ此譜ヲ爰ニ編輯ノ理由タルヤ已ニ置碁ニ於テハ九目ヨリ二目ニ至ル必勝ノ石立ヲ編輯スト雖モ相先ニ至テハ局面廣ク^よ寄處^よナク必勝ノ石立ハ到底望ミ難シ故ニ相先ハ玄妙ノ石立ヲ選ミ明治棋風ヲ導引ノ外ナシ爰ヲ以テ本譜ヲ編輯シ棋道全體ノ教科書ヲ貫成爲セシモノトス

○第七圍碁三世石立集

初編上古ノ部 定價五拾錢

此譜ハ古碁ニシテ二代目算悅本因坊代ヨリ八代目伯元本因坊ニ至ル名人上手ノ對局一百番ヲ選定シ石立ヨリ中央ノ戰ニ至ル百手内外ヲ記載シ其奇手玄妙ノ手段及ビ後學トナルベキ手順ヲ指示ナシタルモノナリ夫レ棋道一通ノ意味了解ノ曉キハ古碁ヲ研究シ其意深遠ニシテ奇々妙々ナル處ヲ自得スルハ斯道ノ肝要トスル處ナリ爰ヲ以テ其材料トシテ編輯ス

○第八圍碁三世石立集

二編中古ノ部 定價八拾錢

此譜ハ同ク古碁九代目察元本因坊代ヨリ十代目烈元本因坊ニ至ル名人上手ノ對局一百番ヲ選定シ同ク研究ノ材料トス就テハ當中古ニ至テハ益々棋道進歩シ棋形ノ變化玄妙ノ手段續々出現シ百手以上ニ至リテモ洩シ難キ奇々妙々ノ手段不尠故ニ止ナク手数ヲ二百手内外ニ増加シ百手分ケト爲シタルバ自然ニ紙數上古ニ倍シ研究者ニ遺憾ナカラン事ヲ慮リタルモノトス

49- 208-73

第九圍碁三世石立集(近刊)

三編晚古ノ部

定價八拾錢

此譜ハ十一代元丈本因坊及ビ名人丈和丈策本因坊ヲ經過シ十六代秀和本因坊代ニ止ム名人上手ノ對局一百番ヲ選定シ同ク研究ノ材料ニ供ス實ニ本世ハ皇國棋道隆盛ノ極端ト云モ誣言ニ不非ベシ何トナレバ名人一半名人六上手九名ニ達シ其ノ對局ヲ現ニ看ル奇々妙々ノ棋譜ト云フベキナリ此隆盛ノ證トシ卷尾ヘ半名人一上手五合セテ六棋伯の連碁一局加記尤モ古今得難キ珍棋譜ナリ

第十初學 大日本圍碁解釋

全

定價五拾錢

此譜ハ極初學ニシテ婦女子ト雖モ斯道ヲ學ナバント欲シ熱心ニ此譜一部ヲ研究スル時ハ容易ニ棋道ノ何モノタル事ヲ自得スルニ疑ヒヲ入ザル處ナリ尤モ追テハ翻譯シ棋道ノ何モノタルヲ不知西洋各國歐羅巴人ヘ斯道ヲ導引押シ廣メン事ヲ目的トシ編輯爲タル譜ナレバ我が邦人ニシテ之ヲ研究スルハ最モ容易ナリトス

第十一新譜圍碁幼稚の登茂志備

此譜ハ最初學者ノ尤モ學ビ易ク入易キヲ慮リ間道ヨリ本道ヘ導引ノ新案ヲ巡ラセシ一小冊ナリ

編輯者 八十翁

大正二年一月

井上保申述

棋書發行所

東京 大野萬歲館

(圍碁の登茂志備)

大正二年一月廿五日印刷

定價金貳拾五錢

大正二年二月一日發行

編纂者

井上保申

發行者 萬歲館 大野慶吉

東京市日本橋區龜島町一丁目十八番地

印刷者 飯島省一

東京市本所區番場町四番地

印刷所 凸版印刷株式會社本所分工場

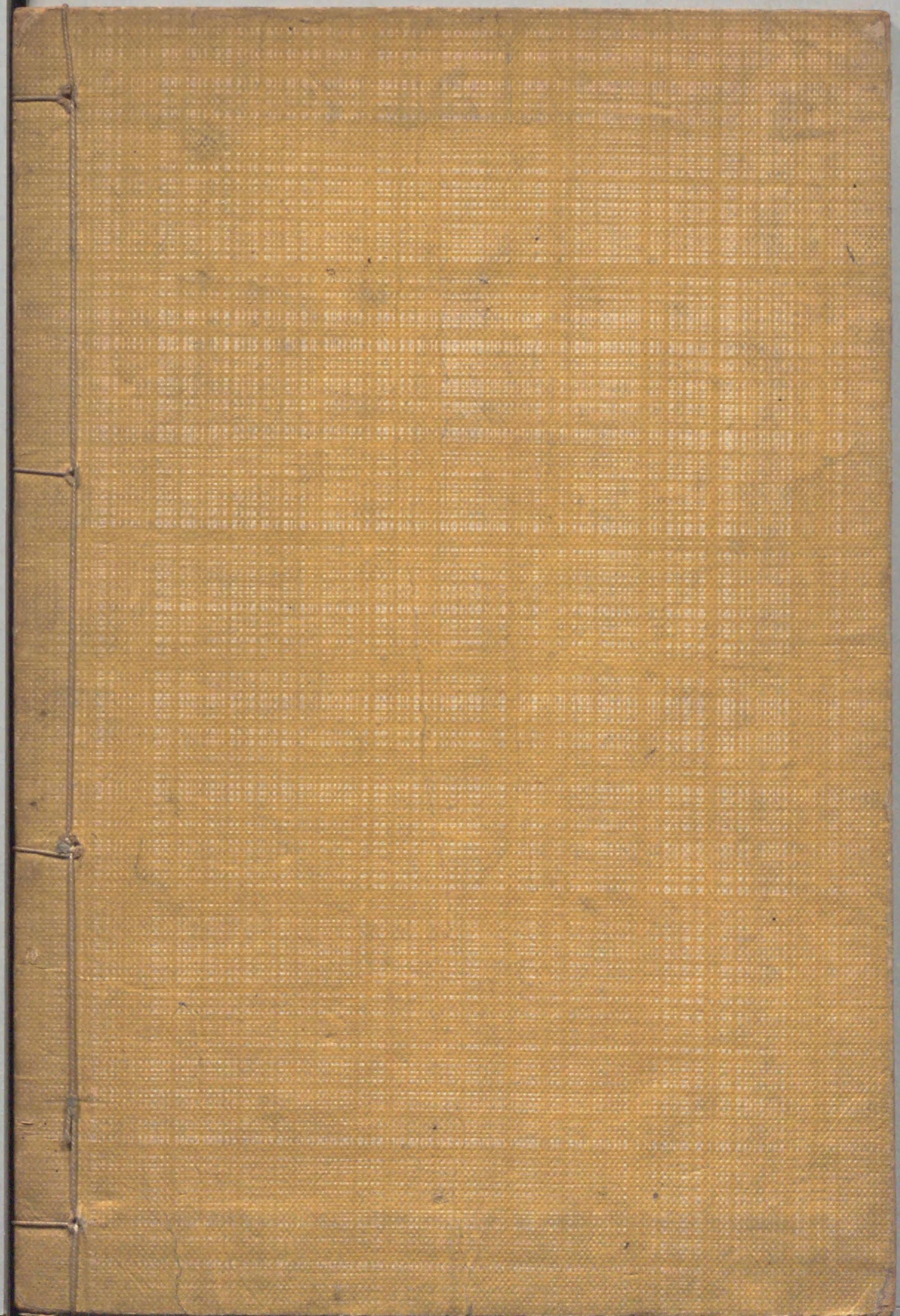
東京市本所區番場町四番地



發行所

東京市京橋區銀座二丁目

大野萬歲館



園砦幼稚の登茂志備

795
1472i



00617212

5.
2i